

第2期岡山市
まち・ひと・しごと創生総合戦略
～デジタル田園都市国家構想の実現に向けて～

令和5年12月〔改訂〕

岡 山 市

目 次

I 総合戦略の基本的な考え方

1 基本的な枠組み	1
（1）位置づけ	1
（2）計画期間	1
（3）計画の進行管理	1
2 岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるこれまでの取組	1
3 第2期総合戦略の基本的な考え方	3

II 目指す方向と具体的施策

基本目標1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

（1）新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興	6
（2）歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進	8
（3）活力ある農業の振興	10
（4）地域の活力を担う人材の育成・確保	10

基本目標2 岡山市への新しいひとの流れをつくる

（1）移住・定住の促進	12
（2）新たな全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進	14
（3）地元大学等との連携	14
（4）地方とのつながりの構築	15

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

（1）保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消	16
（2）結婚・出産・子育て支援	17
（3）ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進	19

基本目標4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

（1）コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり	22
（2）地域連携の推進	26
（3）健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源を生かした地域づくり	26
（4）安心に暮らせる地域づくり	28
（5）地域の課題解決のための持続可能な取組	29

参考

1. 第2期総合戦略とSDGs目標の関連一覧表	31
2. 第2期総合戦略と岡山市第六次総合計画後期中期計画との対応表	32

3. 人口ビジョン	33
3-1 岡山市の人口の現状分析	33
3-1-1 国及び県の人口動向	33
(1) 我が国の人口推移と長期的な見通し	33
(2) 岡山県の人口推移と将来の見通し	33
3-1-2 岡山市の人口分析	34
(1) 人口推移と将来の見通し	34
① これまでの人口推移	34
② 将来の見通し	35
(2) 年齢別人口の現状と変化	36
(3) 人口動態	38
① 自然動態	38
② 社会動態	41
3-1-3 人口減少が与える影響	45
3-1-4 新型コロナウイルス感染症が与える影響	45
3-2 岡山市の人口の将来展望	46
3-2-1 目指すべき将来の方向の基礎となる市民の意識等	46
(1) 結婚・出産・子育てに関する市民意識	46
(2) 移住・定住に関する意識	47
3-2-2 目指すべき将来の方向	48
3-2-3 岡山市人口の将来展望	49
(1) 将来人口推計	49
① 推計パターン	49
② 推計結果	49
③ 人口の将来展望	49
(2) 将来の年齢3区分別人口推計	50
① 年齢3区分別人口比率	50
② 年齢3区分別人口	51

I 総合戦略の基本的な考え方

1. 基本的な枠組み

(1) 位置づけ

第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、第2期総合戦略という)は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、「岡山市第六次総合計画後期中期計画」と整合性をとりながら、活力ある地域社会の実現を図ることを目指す。

(2) 計画期間

令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間

(3) 計画の進行管理

第2期総合戦略では5年間の取組に対する政策分野の基本目標に係る数値目標を設定するとともに、それぞれの具体的な施策については重要業績評価指標(KPI)を設定し、検証・改善を図る仕組みとしてPDCAサイクルを運用する。

また、住民代表や産官学労言などで構成する推進組織である「岡山市まち・ひと・しごと創生市民会議」や市議会による検証も実施しながら、必要に応じて施策や事業の追加、見直し等を行い、第2期総合戦略の改訂を行っていく。

2. 岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるこれまでの取組

平成27年10月に策定した岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下、第1期総合戦略という)においては、「岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する」「岡山市への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する」という4つの基本目標の達成に向けて、地方創生推進交付金等を活用しながら取り組んできた。

令和元年度末での検証を実施した結果、企業立地推進等の「しごと」については成果が出ている一方で、移住・定住の促進については、転出超過に転じた。

この成果と課題をいかし、第2期総合戦略を策定し、取組を進めていく。

【基本目標1】

○ 本社・中四国支店等誘致をはじめとする各種補助制度の創設によるインセンティブ付与や、空港南産業団地の整備による企業立地等を進め、新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興を推進してきた。

- ・ 市内就業者数 366,876人(H24) → 386,521人(H29)(目標値達成)
- ・ 企業立地・再投資件数 8件(H27) → 68件(H27～R1)
- ・ 新規常用雇用者数 85人(H27) → 946人(H27～R1)

- 平成 30 年に認定された日本遺産や、造山ビジターセンターを活用した観光振興を積極的に推進してきた。

【基本目標 2】

- 全国的に東京一極集中の傾向が進む中、転入超過者数(日本人のみ)は、転出超過となっている。一方で、コロナ禍の中、転出抑制の傾向もみられる。
 - ・ 転入超過者数 700 人(H26) → ▲421 人(R1)

【基本目標 3】

- 懸案とされてきた待機児童については、保育の受け皿の整備に加えて、保育士確保に向けて、民間保育士の処遇改善等を実施することで、待機児童数の減少を実現。保育ニーズの高まりによる入園希望者の増加が引き続き見込まれることから、より一層取組を推進していく。
 - ・ 保育所等の待機児童数 729 人(H28. 4. 1) → 157 人(R2. 10. 1)

【基本目標 4】

- 中心市街地においては、路面電車の乗り入れを含めた駅前広場整備事業、ハレまち通り(旧県庁通り)の再整備(一車線化)、緑のボリュームアップ、岡山芸術交流、岡山芸術創造劇場の整備などを推進し、魅力と賑わいのある中心市街地の創出を進めてきた。
 - ・ 快適で賑わいのある都心づくりの満足度 20.4%(H27) → 32.3%(R1)
- 周辺地域においては、地域住民と協働で持続可能な生活交通の導入を進めるとともに、地域おこし協力隊の導入や、地域住民が協働し、地域課題の解決や地域づくりのための諸事業を推進し、活力ある地域づくりを進めてきた。
 - ・ 生活交通導入地区数 5 地区(R2. 10. 1)(目標値達成)
 - ・ 地域おこし協力隊導入数 4 人(H28. 7) → 13 人(R2. 3. 31)(目標値達成)
- 健康ポイント事業や、生涯活躍就労支援事業等を実施し、生涯にわたり健康でいきいきと生活できるまちづくりを推進してきた。
 - ・ 健康寿命の延伸
男性 69.0 歳 女性 72.7 歳(H22) → 男性 71.7 歳 女性 74.4 歳(H28)
- 平成 30 年には SDGs の達成に向けた優れた取組を提案したことによる「SDGs 未来都市」に選定された。
- 防災・減災対策については、平成 30 年 7 月豪雨による教訓を生かし、自主防災組織の結成促進により組織率を大幅に向上した。
 - ・ 自主防災組織率 61.0%(H26) → 92.2%(R2. 3. 31)

3. 第2期総合戦略の基本的な考え方

(1)岡山市人口の将来見通し

我が国の総人口は、2008年の約1億2,800万人をピークに減少局面に入り、2060年には9,284万人となると見込まれている。また、出生数・出生率の低迷により、親となりうる世代の人口が減少している一方、総人口に占める高齢者世代の割合が増加しており、2060年には38%を超える水準まで高まると推計されている。このように生産年齢人口の減少と高齢人口の増加が進むとともに、東京一極集中の傾向は変わらず、特に若い世代の東京への転入超過者数が増加している。

このように、我が国の人口が、今後大きく減少することが見込まれるなか、岡山市の人口ビジョンにおいては、2060年の将来人口推計について、更新したところである。

岡山市の人口は、現状で推移すれば、2060年には64万人程度となる見込みであるが、国が想定する出生率が達成された場合、2035年73万2千人程度をピークに人口減少期に入り、2060年には72万1千人程度となる見込み(岡山市将来展望推計人口)である。

(2)第2期総合戦略の基本的な考え方

「人口ビジョン」で示した岡山市将来展望推計人口を展望しつつ、地方創生の取組を体系的かつ戦略的に推進することにより、人口減少傾向を和らげ、将来人口推計の引上げを図ることが必要であるという第1期総合戦略の基本的な考え方は維持しつつ、新型コロナウイルス感染症に伴う新たな課題に対応する視点を追加した上で策定する。

特に、同感染症から市民の生命や健康を守るためには、基本的な感染対策に加えて保健所体制の強化等が必要となるほか、同感染症の影響により幅広い業種で売上が減少するなど、地域経済に深刻な影響が生じていることを踏まえ、経済活動や市民生活を引き続き支援していく必要がある。

また、同感染症の影響下でテレワークをはじめとする多様な働き方が広がりつつあるほか、人口密度が高い東京圏に集住して日常生活を行うことのリスクが改めて認識されるなど、価値観の多様化も見られるところであり、このような変化に対応しつつ地方創生の実現に向けた取組を進めていく。

(3)第2期総合戦略改訂(令和5年12月)の考え方

新型コロナウイルス感染症の影響により、デジタル・オンラインの活用が進み、社会情勢がこれまでとは大きく変化していることから、デジタルの力によって地方創生の取組をより加速化・深化させ、DXによる「住みやすく躍動感のある」まちづくりを推進していく。

なお、この改訂に際し、第2期総合戦略に副題「～デジタル田園都市国家構想の実現に向けて～」を付す。

基本目標 1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

- 少子高齢化の中で円滑な事業承継を支援するとともに、スタートアップ支援拠点事業をはじめとして、さらなる創業支援を図る。
- 本社機能を有するサテライトオフィス等も含めた企業立地促進に取り組み、I T・デジタルコンテンツ産業の誘致、I C T人材の育成支援など、戦略的な産業振興を推進する。
- 新型コロナウイルス感染症により縮小した経済の回復、先行き不透明な中での景気低迷の長期化への備え、働き方・業態・生活様式の変化に対応した産業の支援を図る。

基本目標 2 岡山市への新しいひとの流れをつくる

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、人口密度が高い東京圏に集住するリスクの再認識や、デジタル技術を活用したテレワークなどの働き方の変化によって地方移住の形態が多様化していることを踏まえ、移住・定住施策の再構築を図る。

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- 引き続き、待機児童の解消に取り組むとともに、困難を抱える子ども・若者やその家庭への支援を行い、安心して出産・子育てができる環境づくりを進める。

基本目標 4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

- コンパクトでネットワーク化されたまちづくりに取り組むとともに、東京一極集中からの転換に向けて、中四国のゲートウェイにふさわしい都市機能の充実を図る。
- 周辺地域においては、交通手段や生活サービスを確保するとともに、移住・定住による地域活性化や地域の歴史文化資源の継承等を地域振興基金も活用しながら促進する。
- 新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症の予防やまん延防止に必要な対策を、適切かつ迅速に進める。

Ⅱ 目指す方向と具体的施策

基本目標 1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

【数値目標】

■企業立地・再投資件数【累計】（件）

60 (H28~R1) → 116 (H28~R7)

■市内企業における管理職(課長相当職以上)に占める女性の割合(%)

7.7 (H30) → 15.0 (R7)



基本的方向

(1) 新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興

地場産業の育成・強化及び地域資源を活かした戦略的な産業の創出・育成を図るとともに、中四国のゲートウェイとしての優れた広域拠点性や、災害リスクの低さ等を活かし、継続的に企業立地を進める。

また、岡山市がもつ医療・介護資源の蓄積をいかし、ヘルスケア関連分野を中心に付加価値の高い産業の創出・育成を図るとともに、起業家等が活動しやすい環境を整え、創業や安定した事業継続を促す。

さらに、スタートアップの事業成長を促進し、地域発のイノベーションの創出に取り組むとともに、IoT・AI等のデジタル技術を活用する地域の企業を後押しし、労働生産性の向上や競争力の強化を目指す。

新型コロナウイルス感染症により縮小した経済の回復、先行き不透明な中での景気低迷の長期化への備え、働き方・業態・生活様式の変化に対応した産業の支援を図る。また、リスク分散等の観点から、企業の地方への機能分散等の企業動向の変化を注視していく。

(2) 歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進

新型コロナウイルス感染症の流行による国内外の観光客の落ち込みや、新しい生活様式の実践による観光需要の変化に対応し、岡山市固有の観光資源に磨きをかけるとともに、近隣自治体との連携による魅力的な観光ルートの創出や情報発信力の強化を図り、圏域全体の経済効果の創出を目指す。

また、デジタル技術とマーケティング手法を活用し、観光資源の魅力アップや観光客の周遊促進を図るとともに、快適な観光を推進し、観光客の満足度向上につなげていくほか、岡山固有の歴史・文化に由来し、都市イメージとして広く浸透している「桃太郎」を積極的に活用することにより、岡山市の認知度や好感度の向上を図り、観光誘客につなげていくためのプロモーションを展開していく。

新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んだ外国人観光客誘致については、各国の観光市場の動向を的確に把握・分析し、プロモーションや受入体制の充実・強化を進めていく。

(3) 活力ある農業の振興

農業の担い手不足や高齢化が進んでいる中、農業を持続的に発展させるため、機械化、省力化による安定的で高品質な生産体制づくりを進めることで、担い手の確保・育成、農地の集積・集約による経営の効率化、6次産業化等による高付加価値化等を推進する。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、移動制限やイベントの中止・規模縮小等で外食需要が減少し、感染予防の観点から、人々の生活様式に変化が生まれ、食を取り巻く環境も大きく変化している。これらの変化が農林水産物の生産・流通に与える影響を引き続き注視しながら、必要な支援を図っていく。

(4) 地域の活力を担う人材の育成・確保

高齢者・女性・障害者・外国人など、多様な人材がその能力を発揮し、活躍できる環境を整備することで、地域の活力を生み出す。

また、ICTを効果的に活用した学びを通して、コミュニケーション力や情報活用能力といった、これからの社会に必要な力を系統的に身に付け、課題の解決に役立てることができる人材を育成する。

具体的な施策と重要業績指標(KPI)

(1) 新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興

① 地場産業の育成・強化

中小企業・小規模企業の経営力を向上させ、環境の変化を乗り越えていくための支援や、起業家やベンチャー企業が活動しやすい環境整備を進めるほか、イノベーション創出の源泉となるスタートアップの事業成長を促進し、イノベーション創出の加速化を図る。

また、中小企業等の貴重な経営資源や、雇用・技術を引き継ぐため、円滑な事業承継を支援するとともに、「新しい生活様式」に対応する業態転換やテレワークなど、事業者の新たな取組を支援する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
市の創業支援による創業者数(者)	22 (H30)	50

(具体的な事業)

事業名	内容
ものづくり産業振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新商品の研究・試作開発費に対する補助 ・県外見本市等に出展する際の小間料等に対する補助 ・中小企業デジタル化推進事業 ・広域商談会の開催や大規模展示会等への出展
海外展開支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・海外市場への販路拡大の支援 ・市内企業の海外展開に要する経費への補助
ものづくり産官学連携推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山大インキュベータの入居者に対する賃料の補助
中小企業活性化事業・創業支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・各種経営セミナーや人材育成研修の開催 ・設備投資や事業承継に対する補助 ・スタートアップ支援事業 ・創業に要する経費への補助
中小企業の経営安定化事業 (融資制度資金貸付、経営診断)	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業の事業資金の調達支援や経営相談の実施 ・事業承継時に必要な資金及び承継後の運転資金、設備資金の調達支援
雇用対策等事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新規学卒者やUIJターン希望者を対象とした合同企業説明会の開催 ・大学生等が市内企業へ関心を高めるための交流事業等 ・新しい生活様式に対応する新入社員採用活動への支援 ・市内企業情報の収集・整理及び市内大学等の学生への情報発信支援

②地域資源を活かした戦略的な産業の創出・育成

豊富な医療・介護資源等の強みや特性をいかし、産学官金の幅広い交流・連携を通じて、市民の健康な生活をサポートする付加価値の高いヘルスケア関連産業等、新産業の創出・育成を図る。

(具体的な事業)

事業名	内容
新産業創出・育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな製品・サービスの開発及び事業化を目的とした異業種連携の促進

③拠点性を活かした企業と人の集積

市内外の人材の移住・定住につながる魅力ある雇用の創出を図るため、幅広い業種の企業の立地を推進するとともに、UIJターン希望者等への企業情報の効果的な発信の支援や、企業説明会の機会を充実することにより、雇用のマッチングを図る。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
企業立地・再投資件数【累計】【再掲】(件)	60 (H28～R1)	116 (H28～R7)

(具体的な事業)

事業名	内容
企業立地推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・製造工場等の立地企業に対する補助 ・再投資・拠点強化を行う市内既存工場等に対する補助 ・物流施設の立地企業に対する補助 ・本社、本社機能、中四国支店等広域的拠点の立地企業に対する補助 ・IT・デジタルコンテンツ産業等の立地企業に対する補助
雇用対策等事業【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ・新規学卒者やUIJターン希望者を対象とした合同企業説明会の開催 ・大学生等が市内企業へ関心を高めるための交流事業等 ・新しい生活様式に対応する新入社員採用活動への支援 ・市内企業情報の収集・整理及び市内大学等の学生への情報発信支援

(2) 歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進

① 観光の振興と情報発信力の強化

岡山市固有の観光資源に磨きをかけるとともに、近隣自治体との連携による魅力的な観光ルートの開発や情報発信等により、地域全体での魅力向上を図る。

また、デジタル技術とマーケティング手法を活用し、岡山城や日本遺産をはじめとする歴史・文化資源や豊富な農作物等の岡山市固有の観光資源の魅力を高めつつ、観光客の利便性向上や快適な環境整備を行うとともに、観光体験メニューや食の開発、観光ガイド等によるおもてなし機運の醸成等により、宿泊地としての魅力向上と新たな観光客やリピート客の獲得を図る。

さらに、岡山市の強みである歴史・文化資産を掘り起こして、新たな観光資源として磨き上げ、魅力を高める。

豊かな自然を擁する市北部中山間地に所在する体験施設や公園等の魅力を高め観光レクリエーションの拠点とするなど、周辺地域の活性化を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
観光客数(千人) ※	7,575	9,487

※新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた指標

(具体的な事業)

事業名	内容
おかやま観光情報発信事業 (シティプロモーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・「桃太郎」をテーマとした情報発信や観光誘客イベントの開催 ・観光素材の創出による観光客が楽しむことができる観光地づくりの推進
観光施設の活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山城天守閣のデジタルコンテンツを含む展示リニューアル等の大規模改修
観光資源の魅力アップ事業	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山城と岡山後楽園との連携による烏城灯源郷と幻想庭園との同時開催等 ・他都市との連携を通じた吉備路をはじめとする広域周遊観光の促進

	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海沿岸の他都市等と連携した情報発信や、岡山をベース宿泊地とする広域周遊観光等の促進 ・日本遺産をはじめとする歴史・文化資源を活用した情報発信、受入体制の整備等による地域への愛着と誇りの高揚、観光資源としての魅力の向上 ・地域文化の創造を目的とした郷土に根付いた芸能の振興と民謡の普及促進
岡山まつり開催事業	・おかやま桃太郎まつり、西大寺会陽などの魅力の発信

②外国人観光客誘客と受け入れ体制の整備

東アジアや欧米に加え、近年観光客が増加している東南アジア等からの外国人観光客の受入体制を整備し、情報発信を行うとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックや2025年日本国際博覧会等の大規模国際イベントの機会を活用することにより、インバウンドを推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
観光客数【再掲】(千人) ※	7,575	9,487

※新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた指標

(具体的な事業)

事業名	内容
おかやま観光情報発信事業 (インバウンド推進)	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾、中国、韓国などの東アジアやフランスをはじめとした欧米、東南アジアなど、ターゲットを絞ったプロモーションの実施 ・真庭市、吉備中央町との共同によるムスリム観光客の受入体制の整備 ・外国人団体旅行客への宿泊費の助成

③コンベンション誘致の推進

岡山市、おかやま観光コンベンション協会、岡山コンベンションセンターに加えて、連携・協力協定を締結した岡山大学や岡山商工会議所等の産官学が連携し、誘致・開催体制をさらに強化するとともに、多様な開催形態への対応を強みとして、様々なコンベンション主催者へ機を逃さず情報提供することにより、地元でのコンベンション開催を促進する。

また、「ESDに関するユネスコ世界会議」や「G20岡山保健大臣会合」開催の経験をいかし、受入体制の充実・強化を進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
コンベンション参加者数(人) ※	162,348	207,000

※新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた指標

(具体的な事業)

事業名	内容
コンベンション誘致対策事業	・コンベンション開催補助金の交付や各種コンベンション開催支援 ・情報収集、セミナーの開催、多様なコンベンション主催者へのセールス等の誘致活動

(3) 活力ある農業の振興

岡山市就農サポートセンターの活用を促進するほか、就農相談会等による新規就農相談、就農への不安解消等を目的とした短期体験、関係機関と連携した実践的な農業技術や経営知識習得のための研修実施等、就農希望者の状況に応じて支援することで、県内外からの新規就農者の増加を図る。

また、スマート農業の取組を推進し、機械化、省力化による安定的で高品質な生産体制づくりを進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
新規就農者数(人)	34	50

(具体的な事業)

事業名	内容
農業の担い手の確保・育成事業	・就農相談会や農業体験研修等の実施による新規就農の促進 ・UIターンを含む新規就農者への奨励金給付や就農直後の経営確立に資する資金交付
スマート農業推進モデル事業	・ハウス内環境のモニタリングと環境制御のデジタル化による、省力化・高品質化を実現

(4) 地域の活力を担う人材の育成・確保

① 多様な人材が活躍できる環境づくり

高齢になっても生涯現役で活躍し続けられるよう、就労や社会参加に向けた支援を行うとともに、雇用先の企業等に対しても、高齢者等の雇用を積極的に行うよう意識改革や労働条件の見直し等を働きかける。

また、働く女性のためのキャリアアップ支援や、結婚や出産等のライフステージの変化の中にあっても、働きつづけられるよう企業に働きかけるとともに、離職した女性の就労を支援する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数(人)	26	750 (R3~R7)

(具体的な事業)

事業名	内容
生涯活躍就労支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者等のニーズに合った就労や社会参加のマッチング支援 ・企業等の高齢者雇用に対する理解の促進
女性が輝くまちづくり推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の経営者や男性管理職等を対象にした女性活躍及びワーク・ライフ・バランス推進に向けた講演会やセミナーの開催 ・企業における働き方改革などの先進事例の情報発信等の実施 ・女性活躍及び仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいる企業の表彰・認証 ・離職した女性のスキルアップや再就職支援、女性社員のキャリア形成の支援 ・学生のためのキャリア形成応援事業の実施

② ICT人材の育成

GIGAスクール構想も踏まえたICT環境の整備を進め、多様な学びの機会を保障し、質の高い教育を目指す。

また、ICTを活用した教育等の充実を図る中で、デジタル教科書等を活用した授業づくりを進め、情報化社会に対応できるコミュニケーション力や情報活用能力の育成を目指す。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
授業でコンピュータなどのICTを毎日使用する子どもの割合(%)	小学校 5.6	小学校 100
	中学校 3.8	中学校 100

(具体的な事業)

事業名	内容
情報活用能力向上事業	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法の研究と研修会等での好事例の紹介 ・中学校区ごとに情報活用能力育成カリキュラムを作成
ICT活用指導力向上事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して指導する力の向上のための研修の充実 ・授業における効果的なICTの活用事例の作成、配付
ICT環境整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想実現に向けた校内ネットワーク等の整備

基本目標2 岡山市への新しいひとの流れをつくる



【数値目標】

- 移住定住支援により移住した人数(人)
30 (R1) → 90 (R7)

基本的方向

(1) 移住・定住の促進

温暖な気候や自然災害の少なさ等を背景に転入超過の状態を保っていたが、近年転出超過となっている。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人々の意識や価値観、働き方の変化が見られており、こうした社会環境の変化にも対応していくことを踏まえ、デジタル技術を活用するなどしながら、岡山市の魅力が十分に伝わる情報発信の強化など、効果的な移住・定住支援施策の再構築を進めていくとともに、若者の岡山への定着を進めるための施策に積極的に取り組む。

(2) 新たな全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」推進

生涯にわたり健康でいきいきと暮らしていけるよう、市民等の身近に健康がある環境の整備に努めるとともに、高齢者等の就労や社会参加に向けた支援を行い、生涯現役で活躍し続けられる取組を進める。

(3) 地元大学等との連携

中小企業等では人手不足を背景に新規学卒予定者の採用意欲については前向きな状況が続いているが、多くの中小企業等は情報発信力が弱く、自社の魅力を十分に伝えられていない状況にあるため、中小企業等の若手人材確保を支援し、企業活動の活性化を促進する。

(4) 地方とのつながりの構築

デジタル技術を活用するなどして、将来的な移住者につながることを期待される関係人口の創出・拡大に取り組むとともに、岡山市への人材や資金の流れの拡大を図る。

具体的な施策と重要業績指標(KPI)

(1) 移住・定住の促進

① 相談体制や移住・定住への支援等

移住支援専用ウェブサイトの充実などにより、移住先としての岡山市の魅力

や特色を情報発信するとともに、移住希望者の住まい・就職・就農等の多岐にわたるニーズに沿ったきめ細かな情報を提供し、UIJターンを促進する。

また、民間の移住者支援団体や就職・転職支援業界、不動産業界等で構成する「岡山市移住・定住支援協議会」と連携し、移住相談・支援、移住後の支援体制を充実させ、岡山県や岡山連携中枢都市圏の市町等と協力し、移住相談会やセミナー等を共同で開催することにより、圏域への移住・定住を促進する。

若者やデジタル人材等、多様な人材の岡山への定着を進めるため、デジタルの発想で地域コミュニティの新たなつながりを創出し、多様な担い手が地域づくりに参画できる仕組みを構築するとともに、市内企業等の情報提供を実施する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
移住定住支援により移住した人数【再掲】(人)	30	90

(具体的な事業)

事業名	内容
移住定住促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・移住支援専用ウェブサイトやFacebook等を活用した情報発信 ・お試し住宅利用者に対する家賃補助及び空き家情報バンク登録物件の情報提供 ・おかやまUIJターン就職支援センターの開設運営及び就職・転職活動に対する交通費補助 ・テレワーカーの移住への支援 ・岡山県や岡山連携中枢都市圏等との移住相談会やセミナーの共同開催 ・オンライン移住相談の実施
学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が地域や市内企業等との協働により実施する地域課題の解決等に資する活動への支援
農業の担い手の確保・育成事業【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ・就農相談会や農業体験研修等の実施による新規就農の促進 ・UIJターンを含む新規就農者への奨励金給付や就農直後の経営確立に資する資金交付
雇用対策等事業【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ・新規学卒者やUIJターン希望者を対象とした合同企業説明会の開催 ・大学生等が市内企業へ関心を高めるための交流事業等 ・新しい生活様式に対応する新入社員採用活動への支援 ・市内企業情報の収集・整理及び市内大学等の学生への情報発信支援

②政府関係機関の誘致促進

東京一極集中を是正するため、平成28年3月に政府関係機関移転基本方針が決定されたところであるが、今後も引き続き国の動向を注視し、必要な対応を図っていく。

(2) 新たな全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進

「健康ポイント事業」など、市民や企業の健康づくりを促進する事業を進めるとともに、健康的なサービスを提供する企業や店舗の拡大を図り、市民等の身近に健康がある環境の整備を進める。

また、生涯現役で活躍できるよう、高齢者等に対して就労や社会参加に向けた支援を行うとともに、雇用先の企業等に対しても、高齢者等の雇用を積極的に行うよう意識改革や労働条件の見直し等を進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数【再掲】(人)	26	750 (R3~R7)

(具体的な事業)

事業名	内容
アプリを活用した健康的な生活習慣推進事業	・企業と連携し、インセンティブ付与を活用した健康的な生活習慣等の促進
生涯活躍就労支援事業【再掲】	・高齢者等のニーズに合った就労や社会参加のマッチング支援 ・企業等の高齢者雇用に対する理解の促進
AIを活用した健康見える化事業	・AIを活用した将来疾病リスクの見える化の実施

(3) 地元大学等との連携

岡山市の産業発展のためには企業の求める人材確保は重要であり、市内に多く立地する大学等や企業と連携し、大学等を卒業する学生が市内企業で活躍できるよう、企業とのマッチングに取り組む。

学生などの活力を活かして地域の様々な課題の解決やスタートアップのチャレンジ等の取組の促進が図られるよう、地元の大学等との連携を積極的に推し進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
若者(20歳代)の地域活動への参加割合(%)	20.1	25.1

(具体的な事業)

事業名	内容
雇用対策等事業【再掲】	・新規学卒者を対象とした合同企業説明会の開催 ・大学生等が市内企業へ関心を高めるための交流事業等 ・市内企業情報の収集・整理及び市内大学等の学生への情報発信支援

学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト【再掲】	・学生が地域や市内企業等との協働により実施する地域課題の解決等に資する活動への支援
安全・安心ネットワーク支援事業 (若者の地域活動への参加促進)	・地域活動を担う人材の育成につながる講座の開催

(4) 地方とのつながりの構築

① 関係人口の創出・拡大

デジタル技術等を活用するなどして岡山市の魅力や特色を首都圏等へ情報発信し、関係人口の創出・拡大を図る。

② 地方への資金の流れの創出・拡大

民間企業の参画を促す「地方創生応援税制」等を活用することで、活力ある地域の創出を図る。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【数値目標】

- 子育てしやすいまちと思う保護者の割合(%)
54.4 (H30) → 65.0 (R5)
- 保育所等の待機児童数(人)
259 (R2.4.1) → 0 (R8.4.1)
- 放課後児童クラブの入所希望児童(潜在ニーズを含む見込み)に対する入所出来た児童の割合(%)
77.3 (R2.4.1) → 100 (R8.4.1)



基本的方向

(1) 保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消

待機児童解消の取組を継続するとともに、将来にわたり安定的に良質な就学前教育・保育を提供するため、保育所等の利用者の増減に適切に対応する。

小学生の放課後等の居場所を確保し、利用希望者全員に適切な育成支援を提供できるよう、放課後児童クラブの安定的な運営や受入れ施設の整備を進める。

(2) 結婚・出産・子育て支援

出産・育児に不安を抱えたまま出産し、支援者が少ない中で孤立した状態で子育てをする保護者の子育てに対する不安感や負担感を和らげ、安心して子育てができる取組を進める。

また、虐待やいじめ、不登校、障害のある子ども、外国人の親子等、きめ細やかなサポートを必要とする子どもやその家庭の問題を早期に発見するとともに、状況やニーズに応じた切れ目のない支援を行う。また、相対的貧困率が高い傾向にあるひとり親家庭等に対して、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、子どもの貧困対策の充実を図り、多様な主体が連携し、地域社会全体で子どもや子育て家庭を支えていく。

(3) ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進

ワーク・ライフ・バランスを一層推進し、女性も男性も働きやすい職場環境づくりを進めていく。

具体的な施策と重要業績指標(KPI)

(1) 保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消

① 幼保連携型認定こども園等の整備を推進

幼稚園と保育所の機能を併せ持つ認定こども園の整備を進めるとともに、施設の民営化や統廃合を進める。

就学前教育・保育を担う人材を確保するため、処遇改善や現場を離れている潜在保育士の再就職支援等に取り組むとともに、施設での働き方改革や業務効率化の推進等により、保育士が生涯働ける環境づくりを進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
保育所等の待機児童数【再掲】(人)	259 (R2.4.1)	0 (R8.4.1)

(具体的な事業)

事業名	内容
私立保育所等の施設整備	・私立保育所等の新設・増築等の施設整備を実施する事業者に対する補助金交付
施設配置の最適化に向けた施設整備等推進事業	・市立幼保連携型認定こども園を中学校区ごとに1園ずつ整備するとともに、その他の施設は民営化や統廃合
保育士確保支援事業	・保育士資格を持ちながら保育所等で就労していない「潜在保育士」への保育士・保育所支援センターにおける就職相談やハローワークと連携した就職面接会等による就職促進を通じた保育人材の確保及び働き方改革や良好な人間関係を支援するための研修実施等による保育士の離職防止
保育士処遇改善事業	・私立保育所等に勤務する保育士等に対する国の処遇改善事業(人材費の上乗せや賃金改善など)に加えた市独自の上乗せ補助の実施による保育人材の確保

②放課後児童クラブの整備を推進

小学生の放課後の居場所を確保し、利用者全員に適切な育成支援を提供できるよう、放課後児童クラブの安定的な運営や受入れ施設の整備を進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
放課後児童クラブ入所希望児童(潜在ニーズを含む見込み)に対する入所できた児童の割合【再掲】(%)	77.3 (R2.4.1)	100 (R8.4.1)

(具体的な事業)

事業名	内容
放課後児童健全育成事業	・放課後児童クラブ施設の計画的な整備、運営体制の充実

(2)結婚・出産・子育て支援

①妊娠・出産・子育てのための切れ目のない支援

安心して妊娠・出産・育児に臨めるよう、健康診査、乳児家庭全戸訪問など、妊産婦、乳幼児に関する保健事業を引き続き進めるとともに、おかやま産前産後相談ステーションを活用し、相談支援体制を充実する。

家庭や子どもに関する様々な相談に身近な場所で応じることができるよう、地域子育て支援センターにおける育児不安等への相談・指導や育児講座等の実施、児童館等における子育て中の親子が気軽に集い相互交流できる場の提供等を行う。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
心豊かな岡山っ子応援団賛助団員(団体) ※	69	90
子育てしやすいまちと思う保護者の割合【再掲】(%)	54.4 (H30)	65.0 (R5)

※新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた指標

(具体的な事業)

事業名	内容
シルバー世代産前産後応援事業	・シルバー人材センターの登録者による、事前登録した産前1か月から産後5か月(多胎児・多子世帯(出産予定日において5歳以下の子どもが3人以上いる世帯)は産後12か月)までの妊産婦を対象にした育児・家事支援の実施
ファミリーサポート事業	・ファミリー・サポート・センターでの、地域において育児の援助を受けたい者(依頼会員)と育児の援助を行いたい者(提供会員)との仲介による会員間での育児の相互援助活動の支援
地域での子育て支援	・心豊かな岡山っ子応援団 ・プレーパーク普及事業 ・子育て応援サイトの運営 ・子育てアプリでの情報プッシュ型発信
妊産婦相談支援事業	・妊娠期から産後に特化した助産師等専門職による相談窓口「おかやま産前産後相談ステーション」を活用した妊産婦の相談支援体制の充実
産後母子支援事業	・産後うつや新生児への虐待予防を図る視点から、産後も安心して子育てができるよう、出産後間もない時期の産婦に対する支援を実施

②困難を抱える子ども・若者やその家庭への支援

児童家庭相談体制や教育、医療、保健、福祉、警察、司法などの関係機関・団体との連携をより一層強化し、きめ細かなサポートを必要とする子どもや家庭を早期に発見し、適切に支援する。

また、困難を抱える子育て世帯への経済的支援や、教育、就労、生活面などにおける総合的な支援を充実させ、子どもの貧困対策やひとり親家庭の自立支援を進める。

(具体的な事業)

事業名	内容
子ども家庭総合支援拠点の設置	・18歳までの子どもとその家庭、妊産婦等に対して、関係機関と連携しながら専門性を持って切れ目のない支援を行う子ども家庭総合支援拠点を整備
ひとり親家庭支援事業	・母子・父子家庭等の生活の安定に向けた生活相談や就労支援等の実施 ・子どもの生活習慣の改善、基礎学力の向上、高等学校進学等を促進するため、生活保護受給世帯、児童扶養手当全額受給世帯、生活困窮世帯の小学生・中学生・高校生・高校生世代に対する生活支援・学習支援
保護者支援プログラム	・児童虐待を行った保護者に対し、虐待の再発を防止するための、医学的・心理学的知見に基づいた支援プログラムの実施

(3) ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進

① ワーク・ライフ・バランスの推進

企業における長時間労働を前提とした労働慣行を改め、多様で柔軟な働き方により、女性も男性も仕事と家庭生活を両立できるよう、経済団体やNPOなど多様な主体と連携して啓発に取り組む。

また、男性の育児・家事への参加意識の高揚を図るとともに、子育ての具体的な知識などの習得を支援することにより、女性の育児・家事の負担の軽減を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
仕事と家庭の両立支援に取り組んでいる企業の割合(%)	45.5 (H30)	70.6 (R7)

(具体的な事業)

事業名	内容
女性が輝くまちづくり推進事業【再掲】	・企業の経営者や男性管理職等を対象にした女性活躍及びワーク・ライフ・バランス推進に向けた講演会やセミナーの開催 ・企業における働き方改革などの先進事例の情報発信等の実施 ・女性活躍及び仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいる企業の表彰・認証
子育てパパ・プレパパ応援事業	・パパ(概ね3歳までの子どもを持つ男性)・プレパパ(これから子育てをする予定の男性)を対象とした育児・家事参加に関する意識啓発 ・赤ちゃんの沐浴指導や疑似妊婦体験、子どもとのふれあい講座など、育児に関する具体的な技術の習得ができる研修の実施

② 一人ひとりの状況や希望に応じた女性への就労支援

結婚や出産等のライフステージの変化等により離職した女性も含め、希望する形態での就労に結びつくように、一人ひとりの状況や希望に応じたきめ細か

な支援を行う。

(具体的な事業)

事業名	内容
女性が輝くまちづくり推進事業【再掲】	・離職した女性のスキルアップや再就職支援
雇用対策等事業【再掲】	・おかもまマザーズハローワークと共同で利便性の高い場所において出張相談を実施

基本目標4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する



【数値目標】

■居住誘導区域内人口密度(人／h a)

58.4 (H27) → 59.6 (R7)

■健康寿命(歳)

男性 71.7 (H28) → 72.6 (R4)

女性 74.4 (H28) → 76.2 (R4)

基本的方向

(1)コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり

都市と自然が調和した住みやすさを将来に確保していくために、低密度な市街地の拡大を抑制するなど、人口や都市規模に応じた適正な土地利用を推進する。

中四国のゲートウェイとしての役割を担う岡山市の中心市街地は、商業・業務・集客施設やコンベンション施設等が集積するJR岡山駅周辺エリアと、歴史・文化施設が集積する旧城下町エリアの2つの核で形成されており、それぞれのエリアが固有の魅力を高めているとともに、西川緑道公園やハレまち通り(旧県庁通り)等で両エリアをつなぐ魅力ある都心空間づくりを進めている。これらの取組を面的に広げることにより、まちなか全体の魅力と賑わい、回遊性の向上を図っていく。

また、岡山城、岡山後楽園等の歴史資産や、美術館、博物館等の文化施設が集積する「歴史・文化ゾーン」における魅力を高めるとともに来訪者の増加や都市格の向上につなげる。

(2)地域連携の推進

中山間地域等の周辺地域において、市民をはじめNPOや企業など多様な主体と協働して、固有の地域資源をいかした取組やデジタル技術の活用を進めることにより、魅力と活力のある地域を創出していくとともに、医療、教育、公共交通などの日常的な生活サービス機能やコミュニティ機能を維持していく。

(3)健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源を生かした地域づくり

生涯にわたり健康でいきいきと暮らしていけるよう健康寿命の延伸を図る取組や、意欲ある高齢者の社会参加などをさらに進めるとともに、医療・介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、岡山市の豊富な医療・介護資源をいか

しつつ、医療・介護の連携強化に取り組む。

また、遠隔地などからもリモートでオンライン健康相談を可能にするなど、きめ細やかな福祉サービスの提供を進める。

さらに、新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症の予防及びまん延防止に向けた国の施策や、患者の発生動向などの状況の変化に迅速かつ柔軟に対応できるよう情報収集などに努め、必要な対策を講じるとともに、市民に対する正しい知識の普及や関係機関との更なる連携強化を進める。

(4) 安心に暮らせる地域づくり

市民の防災意識や災害時の対応への関心が高まっていることから、「逃げ遅れゼロ」を目指して、地域住民による防災訓練のほか、防災学習会の開催や防災マップの作成など、地域における自主的な防災・減災活動を進めるとともに、デジタルを活用した防災力の向上を図る。

(5) 地域の課題解決のための持続可能な取組

持続可能なまちづくりを実現するために、市民に対し幅広くSDGsの理解促進を図っていくとともに、ESD先進都市という特色を活かし、SDGsの達成につながるESDの取組を一層進めていく。

また、多様化する地域課題に対応するため、行政や地縁組織のほか、企業や大学、NPOなどの多様な主体の参画と協働による取組が着実に増えている。今後も、持続可能なまちづくりに向けて、これまで以上に多様な主体が担い手となり、協働して地域課題に取り組んでいく。

持続可能なエネルギーの推進、温室効果ガス排出量の削減等に取り組むとともに、脱炭素社会を目指して、岡山連携中枢都市圏の自治体等と共同して取組を検討する。

具体的な施策と重要業績指標(KPI)

(1) コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり

① 計画的なまちづくりの推進

「岡山市立地適正化計画」に居住や都市機能を誘導する区域を定め、一定の人口密度を維持するとともに、必要な都市機能を確保し、それらの区域を公共交通ネットワークで結ぶことにより、人口減少、超高齢化社会においても、若年者から高齢者まで歩いて健康に暮らすことができるなど、生活の質が高く活力あふれる持続可能な都市づくりを進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
居住誘導区域内人口密度【再掲】(人/ha)	58.4 (H27)	59.6

JR岡山駅乗降客数(1日当たり)(万人) ※	13.9	14.3
------------------------	------	------

※新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた指標

(具体的な事業)

事業名	内容
土地利用の適正誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画法、農地法等の適正な運用及び都市計画マスタープランに基づく計画的な土地利用の推進 ・立地適正化計画に基づく都市機能や居住の誘導区域への誘導 ・公共交通施策等の関連施策と連携した、コンパクトでネットワーク化された都市づくりの推進
空き家対策	<ul style="list-style-type: none"> ・法及び条例に基づく設置と密接に連携した助成制度を軸とした空き家等の適正管理の促進
鉄道の利用環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ・桃太郎線LRT化の検討や駅前広場等の交通結節点強化による鉄道利用環境の改善
まちなかの魅力やにぎわいをつなぐ公共交通の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・路面電車の岡山駅前広場への乗り入れ及びネットワーク化に向けた取組の推進 ・バスロケーションシステム等の案内情報の充実等

②公共交通の維持・確保

地域における日常生活に必要な交通手段を確保・維持するため、コミュニティバスの運行経費への助成を行うとともに、交通事業者との連携により、利用促進に資する運行サービスの改善に取り組む。また、公共交通が身近に無く、買い物や通院などの日常生活における移動が不便な地域では、地域住民及び交通事業者との連携により、地域特性に応じた生活交通の導入について検討する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
自宅から都心や身近な拠点に公共交通で30分以内に行ける人口(万人)	30.3 (H27)	36.1
生活交通導入地区数(試行運転開始地区を含む)(地区)	3	8

(具体的な事業)

事業名	内容
新たな生活交通の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民及び交通事業者との連携による、買い物や通院などの日常生活における移動が不便な地域への新たな交通手段の導入に関する検討
岡山市地域公共交通利便増進実施計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山市地域公共交通網形成計画に基づき、持続可能な公共交通の実現に向けた具体の施策の取組のための岡山市地域公共交通利便増進実施計画の策定

③まちなかの賑わい創出

旧城下町エリアにおいて、烏城公園(石山公園地区)や旭川おしろみちの再整備、岡山芸術創造劇場の整備をはじめとする各種事業を展開していくことにより、伝統文化と新たな文化が融合し、賑わいとゆとりの感じられる魅力的なエリアを創出する。

路面電車の岡山駅前広場への乗り入れにあわせた駅前広場の整備、及び路面電車の延伸、環状化等により、公共交通の利便性の向上を図るとともに、ハレまち通り(旧県庁通り)等で安心して楽しく歩ける道路空間づくりなどを進め、回遊性を向上し、まちなかの賑わい創出を推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
中心市街地の歩行者通行量(人) ※	(平日) 4,324 (H29) (休日) 5,654 (H29)	(平日) 4,400 (休日) 5,700
JR 岡山駅乗降客数(1日当たり)【再掲】(万人) ※	13.9	14.3

※新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた指標

(具体的な事業)

事業名	内容
旧城下町エリアの賑わいづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の文化芸術の鑑賞や活動の拠点である岡山市民会館・市民文化ホールに替わる新しい文化芸術施設「岡山芸術創造劇場」の整備 ・「旭川かわまちづくり計画」に基づき、旭川を中心とした賑わいの拠点づくりに向けた、国との連携による旭川おしろみちの整備や烏城公園(石山公園地区)の再整備等 ・市民、事業者、NPO、大学等との協働による、まちなかの公園の特性をいかした利活用やルールづくり
歩いて楽しい道路空間創出事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ハレまち通りにおいて、官民連携の道路空間の利活用に向けた組織やルールづくり、空き店舗や空き地の有効活用による取組 ・まちなかの賑わい創出や回遊性の向上を官民連携により面的に拡げる取組 ・ハレまち通りにおける賑わいの創出や回遊性向上を目指し、「車中心」から「人優先」の安全で快適な「歩いて楽しい」道路空間の再構築 ・商店街等における官民連携の道路空間の利活用に向けた取組
都心創生まちづくり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・旧内山下小学校や市民会館等の跡地活用の検討等

④魅力的な商店街の振興

商店街が行う店舗誘致活動、集客イベントをはじめとした来街者の誘導及び販売促進・顧客獲得に向けた取組、安全・安心で快適な商業空間の創出に向けたアーケードや防犯設備等の基盤整備、外部団体との連携による新たな商店街の賑わいづくりに対する支援などを行い、商店街の魅力を高める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
中心市街地の歩行者通行量【再掲】(人) ※	(平日) 4,324 (H29) (休日) 5,654 (H29)	(平日) 4,400 (休日) 5,700

※新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた指標

(具体的な事業)

事業名	内容
商店街等地域商業の活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街等が行う商店街活性化に向けた取組や、地域商業の活性化に向けた取組への支援 ・市内中心部の顧客吸引力や商業力等を計るために必要な各種調査の実施 ・商店会連合会が主催する魅力的なイベントの開催や情報発信、調査研究事業等への支援 ・AIカメラによる商店街等歩行者通行量調査

⑤文化芸術施設等を拠点とした文化振興やスポーツによる活力の創出

「岡山芸術創造劇場」を地域の文化芸術の継承・創造・発信や多様な文化芸術の担い手の育成、活動の拠点として整備を進め、その開館を契機として既存文化事業の見直しを行いながら、文化の薫る魅力と賑わいのあるまちづくりを進める。

さらに、岡山市をホームタウンとするトップチームへの一層の支援や県内外から多くの参加者が集まる「おかやまマラソン」の開催を通じて、スポーツによるまちの活力向上を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
過去1年間に文化芸術を体験(参加・鑑賞)した人の割合 (%)	57.3	65.0

(具体的な事業)

事業名	内容
文化芸術に親しむ事業	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩な音楽文化に触れることのできる「おかやま国際音楽祭」等の開催 ・地域の文化活動団体の表現の場である「岡山市芸術祭」の開催 ・岡山市出身の坪田譲治を顕彰する「坪田譲治文学賞」と市民の創作活動を奨励する「市民の童話賞」の実施
岡山フィルハーモニック管弦楽団の活動支援	・県内唯一のプロオーケストラである岡山フィルハーモニック管弦楽団の運営支援を通じた、プロの演奏に触れる機会の増加や都市の魅力向上
岡山芸術交流の開催	・岡山城の歴史・文化ゾーンを主会場とした「岡山芸術交流」の開催、実施結果の検証を踏まえた次回開催を目指した検討
岡山芸術創造劇場整備事業	・市民の文化芸術の鑑賞や活動の拠点である岡山市民会館・市民文化ホールに替わる新しい文化芸術施設の整備
トップチーム支援事業	・市民デーでの各種イベントの開催や選手との交流イベント等への支援

おかやまマラソン	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県や関係団体との共同による「おかやまマラソン」の開催 ・各種関連事業の実施による、岡山の魅力発信
----------	--

(2) 地域連携の推進

① 周辺地域の活性化

中山間地域等の周辺地域において、経済・産業の振興、移住・定住による地域活性化、歴史・文化の継承や生活交通等の生活機能サービスの維持・向上等の取組を地域振興基金も活用しながら促進する。また、市民をはじめ、NPOや企業などの多様な主体が地域の課題解決や地域資源を活用した魅力ある地域づくりを進めることを支援する。

さらに、公共交通が身近に無く、買い物や通院等の日常生活における移動が不便な地域では、地域住民及び交通事業者との連携により、地域特性に応じた生活交通の導入について検討する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
都市としての便利さと自然の豊かさとの調和の満足度(%)	37.8	39.3

(具体的な事業)

事業名	内容
地域振興基金活用事業	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・産業の振興、歴史文化資産の継承や生活交通等の生活機能サービスの維持・向上 ・地域住民をはじめ、NPOや企業等による地域課題の解決への取組や地域の産品等を活用した地域活力の創出などに対する支援
新たな生活交通の確保【再掲】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民及び交通事業者との連携による、買い物や通院などの日常生活における移動が不便な地域への新たな交通手段の導入に関する検討
地域おこし協力隊事業	<ul style="list-style-type: none"> ・主に中山間地域等への人材の誘致及び地域住民との協力による地域活性化の促進

② 連携中枢都市圏構想の推進

岡山市を中心都市とする8市5町の連携中枢都市圏で「連携協約」の締結及び「岡山連携中枢都市圏ビジョン」の策定を行い、連携施策を推進することにより、人口減少下にあっても地域経済を活性化し、圏域全体の持続可能な発展をめざすとともに、住民サービスの維持・向上を図り、安全・安心で利便性の高い暮らしを確保する。

(3) 健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源を生かした地域づくり

① 生涯にわたり健康でいきいきと生活できるまちづくり

「健康ポイント事業」など、市民や企業の健康づくりを促進する事業を進

めるとともに、健康的なサービスを提供する企業や店舗の拡大を図り、市民等の身近に健康がある環境の整備を進め、健康寿命の延伸に向けた健康づくりを推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
健康寿命【再掲】(歳)	男性 71.7 (H28) 女性 74.4 (H28)	男性 72.6 (R4) 女性 76.2 (R4)
生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数【再掲】(人)	26	750 (R3~R7)

(具体的な事業)

事業名	内容
アプリを活用した健康的な生活習慣推進事業【再掲】	・企業等と連携し、インセンティブ付与を活用した健康的な生活習慣の促進
AIを活用した健康見える化事業【再掲】	・AIを活用した将来疾病リスクの見える化の実施
フレイル対策事業	・フレイル予防の周知啓発 ・高齢者を対象としたフレイル健康チェックの実施 (タブレット[アバター]によるフレイル健康チェックの活用)
生涯活躍就労支援事業【再掲】	・高齢者等のニーズに合った就労や社会参加のマッチング支援と企業等の高齢者雇用に対する理解の促進

②医療・介護の強みを生かした地域包括ケアシステムの構築

高齢者が自ら健康寿命の延伸に努め、地域社会で活躍し、医療や介護が必要になっても地域や人とのつながりを保ちつつ、自分らしい生活を人生の最期まで安心して続けられるよう、医療・介護の連携や高齢者の社会参加、認知症対策等を進め、住まい・医療・介護・介護予防・生活支援が一体的に提供される体制である「地域包括ケアシステム」を推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
認知症サポーター数(人)	52,565	75,000
生活・介護支援サポーター養成数(人)	1,362	2,080

(具体的な事業)

事業名	内容
在宅医療介護連携推進事業	・地域ケア総合推進センターにおける、市民や専門職を対象とした医療・介護の相談・支援 ・在宅医療・介護の人材育成

	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携等と情報共有の促進 ・市民向け講座による普及啓発等の実施 ・地域包括支援センターの活動支援及び認知症地域医療多職種連携の推進
生活・介護支援サポーター養成	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を地域で支える担い手の養成を目的とした、市民向けの生活介護・支援サポーターの養成研修の実施
認知症サポーター養成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を正しく理解し、認知症の人とその家族を温かく見守り支援する「認知症サポーター」の養成 ・企業の従業員、子供、学生に対するサポーター養成の取組の強化
地域包括支援センター運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合相談・支援」、「介護予防ケアマネジメント」、「虐待防止・権利擁護」、「包括的・継続的ケアマネジメント支援」のサービス提供を通じた、地域で暮らす高齢者に対する介護・保健・医療・福祉など様々な面からの総合的な支援の実施

③感染症対策

平時から、感染症に関する正しい知識や、予防及びまん延の防止に関する情報等を市民に周知する。また、感染症発生時には、その発生状況等に応じて、必要な対策を講じていけるよう保健所体制の整備を行う。更に、感染症患者の発生や感染症対策の実施状況等について、迅速かつわかりやすく、患者等の人権にも配慮し、情報提供を行う。

(4) 安心に暮らせる地域づくり

「逃げ遅れゼロ」を目指し、デジタルを活用した防災力の向上を進めるとともに、市民一人ひとりが防災に関する十分な知識を持ち、自主防災の重要性を認識できるよう、防災学習会、防災訓練等を通じて、防災に対する意識の高揚を図る。

また、地域で主体的に防災活動を行う地域防災リーダーの育成や先進事例の発表、意見交換、さらに避難行動要支援者個別計画の策定支援等を通じて、地域での防災活動を活性化する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
自主防災組織率(%)	92.2	100

(具体的な事業)

事業名	内容
自主防災組織育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の結成促進、助成金の給付 ・男女ともに地域防災リーダーを育成するため、地域住民や公民館職員を対象とした防災士養成講座を開催

(5) 地域の課題解決のための持続可能な取組

①地域の課題を地域で解決する課題解決型の活動と組織づくり

安全・安心ネットワークやコミュニティ協議会等の活動をはじめ、地域における課題解決につながる取組を支援することにより、地域住民の交流促進や地域の主体的な活動の活性化を図る。

また、行政や地縁組織、企業、大学、NPO等の多様な主体が協働による地域の社会課題解決を図るために、計画的な取組を推進することで、地域活動の担い手づくりや多様な主体の協働を進める。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
地域活動への参加割合(%)	45.3	50.8
企業・NPO法人等が参加した安全・安心ネットワーク数(団体)	40	65

(具体的な事業)

事業名	内容
区づくり推進事業	・地域の特性をいかした地域交流事業及び課題解決のための地域活動に対する活動経費の一部助成
市民協働推進事業	・岡山市の社会課題を市民と行政の協働で解決する事業への経費の一部助成 ・市民と行政双方から課題を提案し解決方法を検討するワークショップの開催

②ESDの推進による地域づくり・人づくりとSDGsの普及・啓発

持続可能な社会づくりを目指し、SDGsの理解促進と新たな実践行動につなげていくため、関連組織等と連携して、イベントやフォーラムなどSDGsの学びの機会を設ける。

また、地域課題を踏まえながらESDの視点で学びと活動を推進できる人材を育成し、SDGsの達成に貢献していく。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
ESDプロジェクト参加団体数(団体)	307	405

(具体的な事業)

事業名	内容
岡山ESDプロジェクト推進事業	・各種研修やフォーラム開催のほか、学生を対象としたESDに関するインターンシップ等のプログラムの提供 ・優良事例の顕彰等を実施する岡山ESD推進協議会の経費への助成 ・ESD活動等の情報発信等

③環境保全活動の推進

脱炭素型の都市の実現に向けて、エネルギーの地産地消、省エネルギー化、安定的なエネルギー確保や未利用エネルギーの利活用などにより温室効果ガスの削減を図り、市域全体での効率的・効果的なエネルギーの利活用を進めるとともに、岡山連携中枢都市圏の市町や経済界等と協力して、脱炭素社会に向けた新たな取組について検討を進める。

また、多様な主体との連携による自然体験プログラムの実施や生物多様性の保全に取り組む企業活動の支援、地域での主体的な環境保全活動の担い手づくりを進め、環境保全活動の輪を広げる。

さらに、市民の健康で快適な暮らしや良好な水環境を保全するため、公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽の適切な役割分担のもと、総合的な污水处理対策を推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値 (R1)	最終目標値 (R7)
温室効果ガス排出量(千t・CO ₂)	6,119 (H29 暫定)	5,141 (R5)
污水处理人口普及率(%)	84.2	90

(具体的な事業)

事業名	内容
地球温暖化対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・徹底した省エネルギーの推進 ・再生可能エネルギーの最大限の導入 ・電気自動車等の普及促進 ・次世代エネルギー導入の推進 ・岡山連携中枢都市圏の市町や経済界等との取組の検討
環境づくり支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境や生物多様性についての意識向上を目的とした、多様な主体が開催する自然体験プログラムに対する支援 ・地域イベントや体験学習等を通じて、里地里山里海の地域づくりを担う新たな人材確保の枠組み形成を推進 ・地域で自発的に環境を保全・創造する活動を実践する市民や団体等を「エコボランティア」として位置づけて活動を支援
下水道整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランに基づく公共下水道の重点的な整備
農業集落排水施設の効率的な運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的・継続的な生活排水対策を推進するため、農業集落排水施設の統廃合、改築・更新の実施
合併処理浄化槽設置補助金事業	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道整備計画の無い地域や下水道整備の予定が当面無い地域における、自宅に合併処理浄化槽を設置する個人に対する補助金の交付
海ごみ地域対策推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・海ごみが堆積するホットスポットを航空写真等の解析等によって市民に周知する仕組みの開発

参 考

1. 第2期総合戦略とSDGs目標の関連一覧表

基本目標1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する 	(1) 新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興	
	(2) 歴史・文化資源を活かした観光誘客の促進	
	(3) 活力ある農業の振興	
	(4) 地域の活力を担う人材の育成・確保	
基本目標2 岡山市へ新しいひとの流れをつくる 	(1) 移住・定住の促進	
	(2) 新たな全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進	
	(3) 地元大学等との連携	
	(4) 地方とのつながりの構築	
基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる 	(1) 保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消	
	(2) 結婚・出産・子育て支援	
	(3) ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進	
基本目標4 安全・安心に暮らせるまちづくり、地域と地域を連携する 	(1) コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり	
	(2) 地域連携の推進	
	(3) 健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源を生かした地域づくり	
	(4) 安心に暮らせる地域づくり	
	(5) 地域の課題解決のための持続可能な取組	

2. 第2期総合戦略と岡山市第六次総合計画後期中期計画との対応表

基本目標	具体的な施策	都市づくりの基本方向									
		1 地域経済の活性化による、魅力と活力あふれるまちづくり	2 コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくり	3 歴史と文化が薫り、誇りと一体感の持てるまちづくり	4 安心して子育てができ、若者や女性が輝くまちづくり	5 つながる教育で未来を拓く人材を育むまちづくり	6 理解を深め合い、ともに築く市民主体のまちづくり	7 住み慣れた地域で安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり	8 地域の力をいかした災害に強く安全・安心なまちづくり	9 豊かな自然と調和した市民の手による持続可能なまちづくり	10 圏域をリードし、都市の持続的発展を支える都市経営
基本目標1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する	(1) 新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興	○									
	(2) 歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進	○		○							
	(3) 活力ある農業の振興	○									
	(4) 地域の活力を担う人材の育成・確保				○	○		○			
基本目標2 岡山市へ新しいひとの流れをつくる	(1) 移住・定住の促進	○			○						
	(2) 新たな全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進							○			
	(3) 地元大学等との連携	○			○						
	(4) 地方とのつながりの構築	○									
基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(1) 保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消				○						
	(2) 結婚・出産・子育て支援				○						
	(3) ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進				○						
基本目標4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する	(1) コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり	○	○	○							
	(2) 地域連携の推進		○								○
	(3) 健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源を生かした地域づくり							○			
	(4) 安心に暮らせる地域づくり								○		
	(5) 地域の課題解決のための持続可能な取組							○		○	

3. 人口ビジョン

3-1 岡山市の人口の現状分析

3-1-1 国及び県の人口動向

(1) 我が国の人口推移と長期的な見通し

我が国の人口は、2008(平成 20)年の 1 億 2,808 万人でピークを迎え、日本の総人口は 2048 年に 1 億人、2100 年には 6 千万人を割り込むまでに減少することが見込まれている。

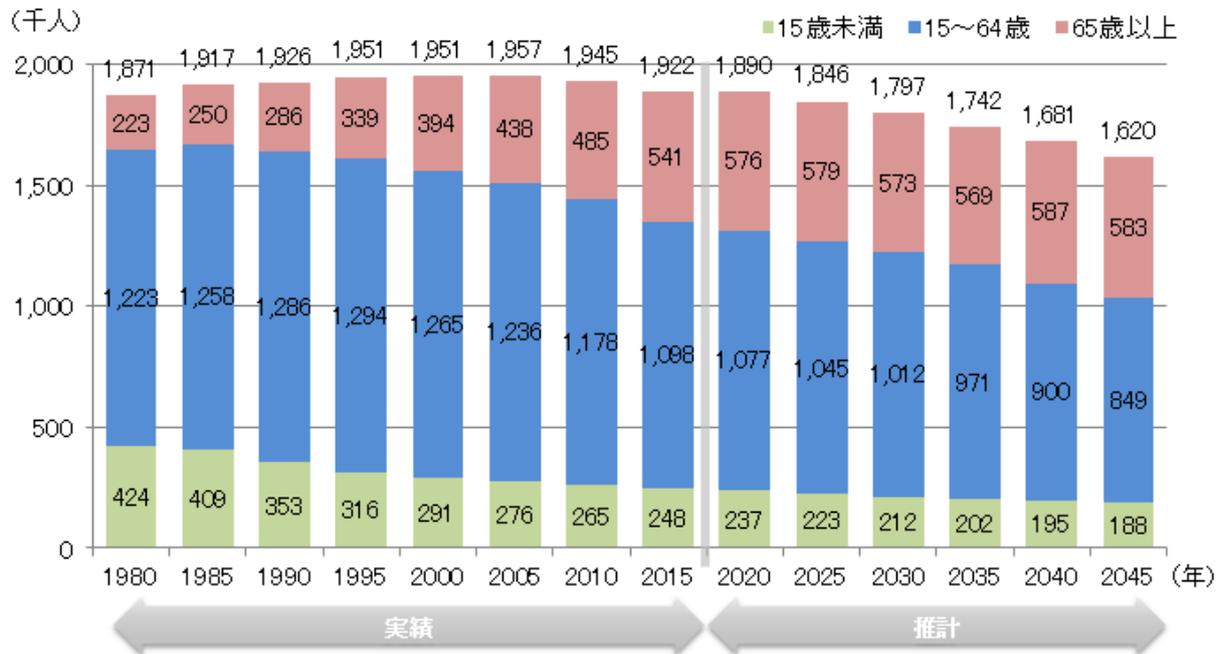
合計特殊出生率が上昇(2030 年に 1.8 程度、2040 年に 2.07 程度)すれば、2060 年に総人口 1 億人程度を確保し、その後、2100 年前後には人口が定常状態になることが見込まれている。

(2) 岡山県の人口推移と将来の見通し

岡山県の人口は 2005(平成 17)年の 195 万 7 千人をピークに減少に転じ、2045 年の人口は 2015(平成 27)年より 15.7%少ない 162 万人となることが見込まれている。

0～14 歳、15～64 歳人口は減少し続ける一方、65 歳人口は 2025 年頃まで増加が続き、その後、横ばいとなる見込みとなっている。

図表 1 岡山県の人口推移と将来の見通し



注：年齢3区分別の実績値には年齢不詳を含まないため、総数と年齢3区分別の値の合計は一致しない。

資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 30(2018)年推計)」

3-1-2 岡山市の人口分析

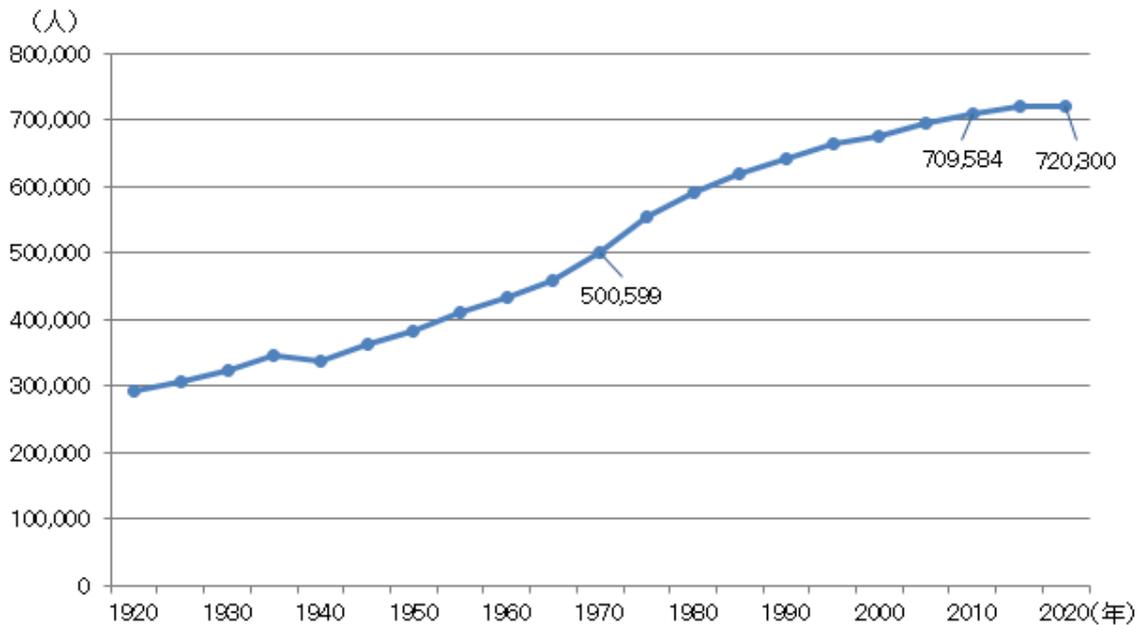
(1) 人口推移と将来の見通し

① これまでの人口推移

岡山市の人口は戦後一貫して増加している。高度経済成長期には、周辺市町村との合併が進むなど、1970(昭和45)年には人口が50万人を超え、その後も人口は着実に増加を続け、2007(平成19)年には、推計人口が70万人を突破し、2009(平成21)年4月に政令指定都市に移行した。

2020(令和2)年10月1日現在の推計人口は、720,300人となっている。

図表2 岡山市の人口推移



注：人口等は現在市域。人口総数には年齢「不詳」を含む。

資料：総務省「国勢調査」、2020年は岡山県「毎月流動人口調査(令和2年10月1日)」

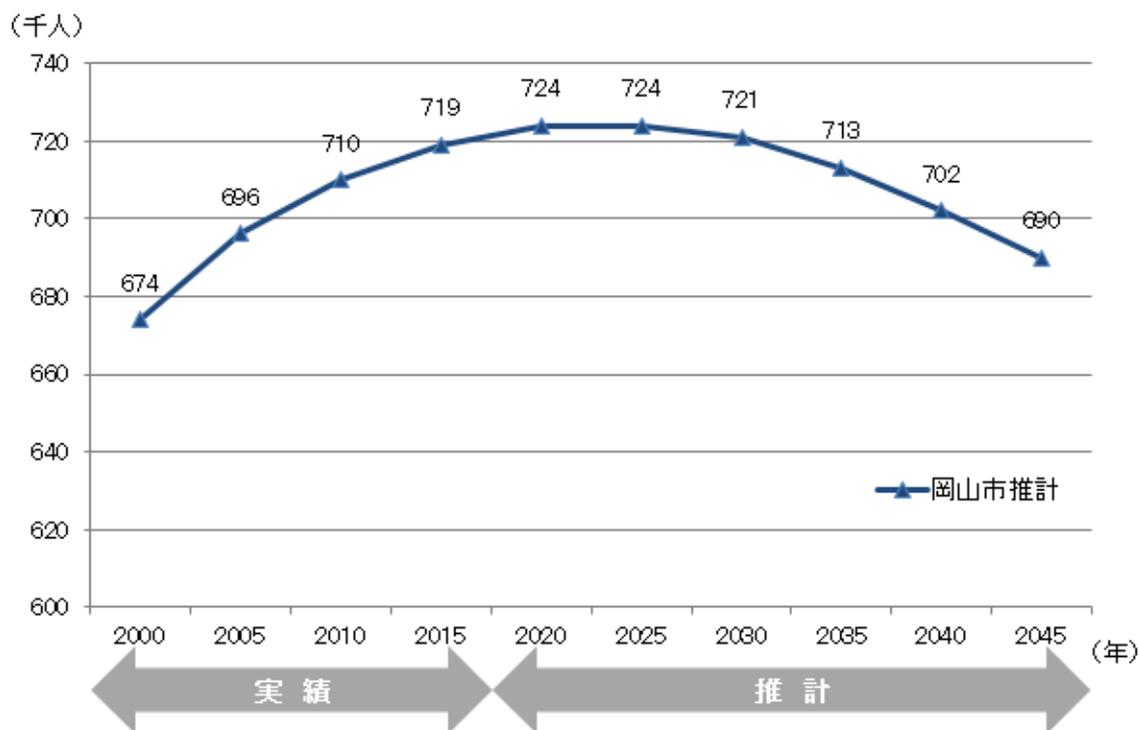
②将来の見通し

ア 岡山市の将来人口推計

2045年までの将来人口推計は、以下のとおりである。

2045年には、2020(令和2)年より約3万4千人減少し、69万人となる見込み。

図表3 岡山市の将来人口推計



資料：総務省「国勢調査」(実績値)、岡山市推計結果(推計値)

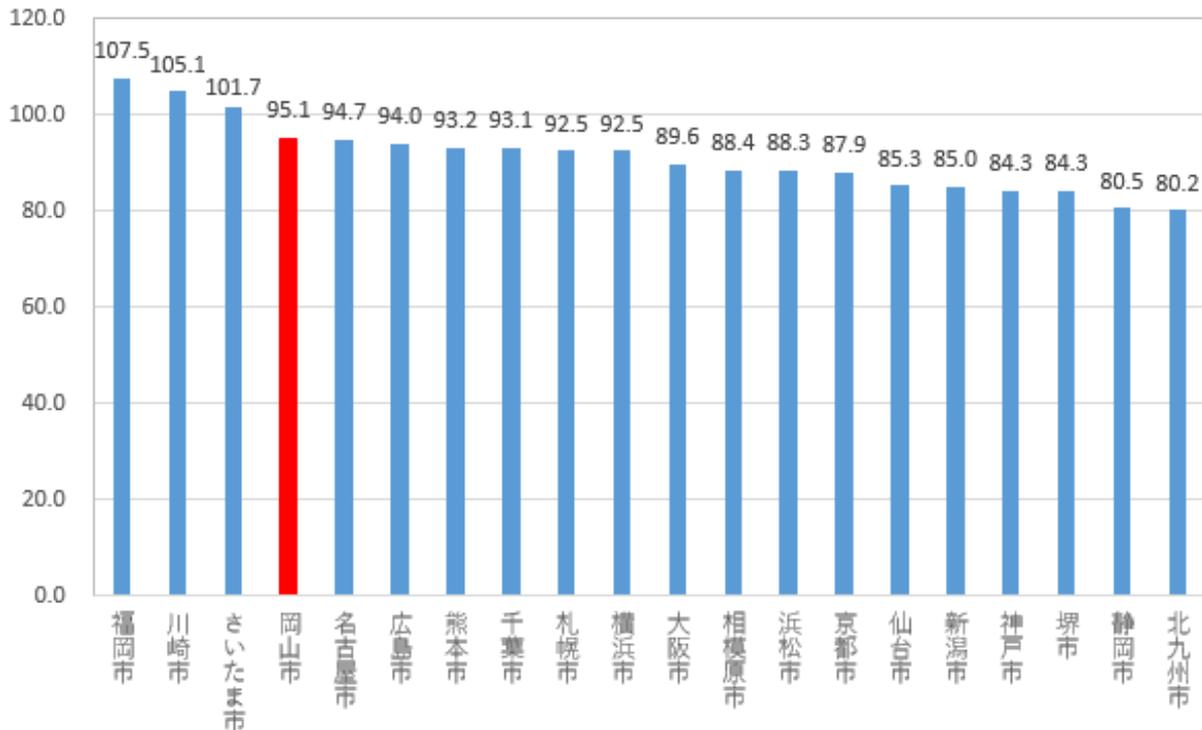
岡山市推計の方法

- ・推 計 期 間：2020(令和2)年～2045年
- ・基 準 人 口：2015(平成27)年国勢調査による男女5歳階級別人口
- ・出 生（出生率）：岡山市の2014(平成26)年～2018(平成30)年の平均値の1.46を基準値とし、将来の仮定値は横ばいとした。
- ・死 亡（生残率）：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」の岡山市の生残率。
- ・純移動(純移動率)：岡山市の2005(平成17)年～2010(平成22)年、2010(平成22)年～2015(平成27)年の国勢調査の結果に基づき、純移動率を設定し、将来の仮定値を横ばいとした。

イ 指定都市別将来人口推計の比較

2045年における人口推計を、2015(平成27)年の人口を100とした場合の指数で指定都市別に表示したものである。直近の社会動態が順調であったこと等の影響もあり、岡山市の指数は95.1であり、指定都市の中で4番目に高い。

図表4 将来人口推計における指定都市別人口増減率順位



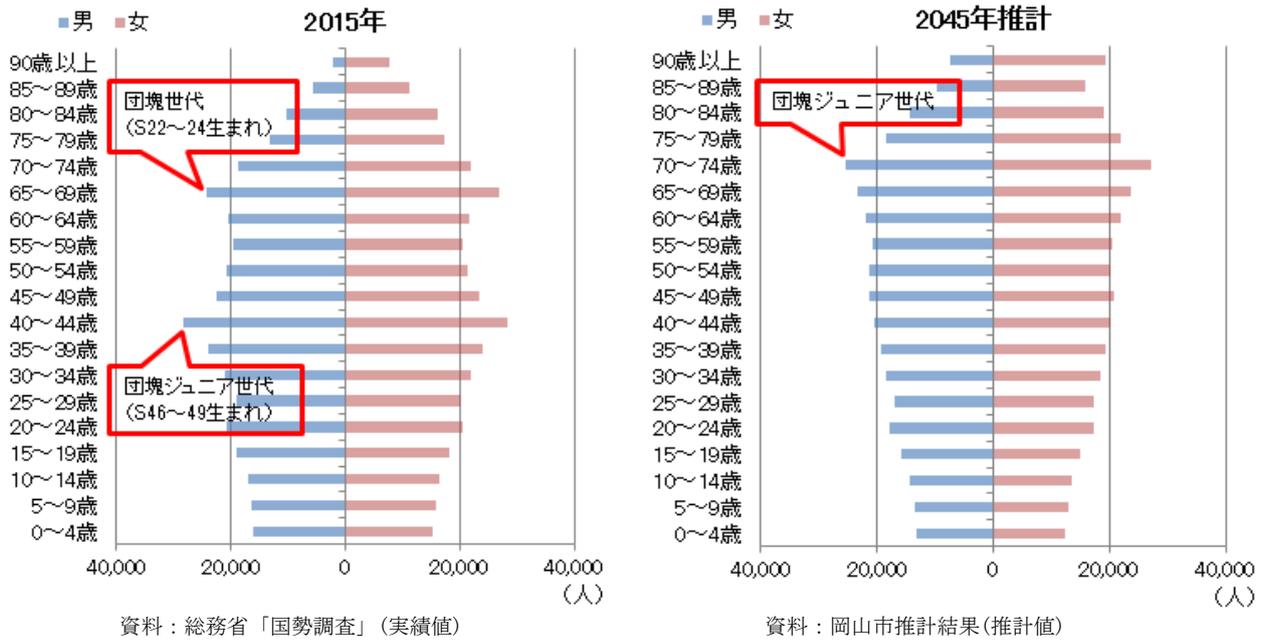
資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」

(2) 年齢別人口の現状と変化

2015(平成27)年と2045年の岡山市の人口構成の予測を比較した場合、2015(平成27)年では40～44歳のいわゆる団塊ジュニア(第2次ベビーブーム)と呼ばれる年齢層での人口が男女とも最も多く、次いで65～69歳のいわゆる団塊の世代(第1次ベビーブーム)と呼ばれる年齢層が多い、「ひょうたん型」となっている。

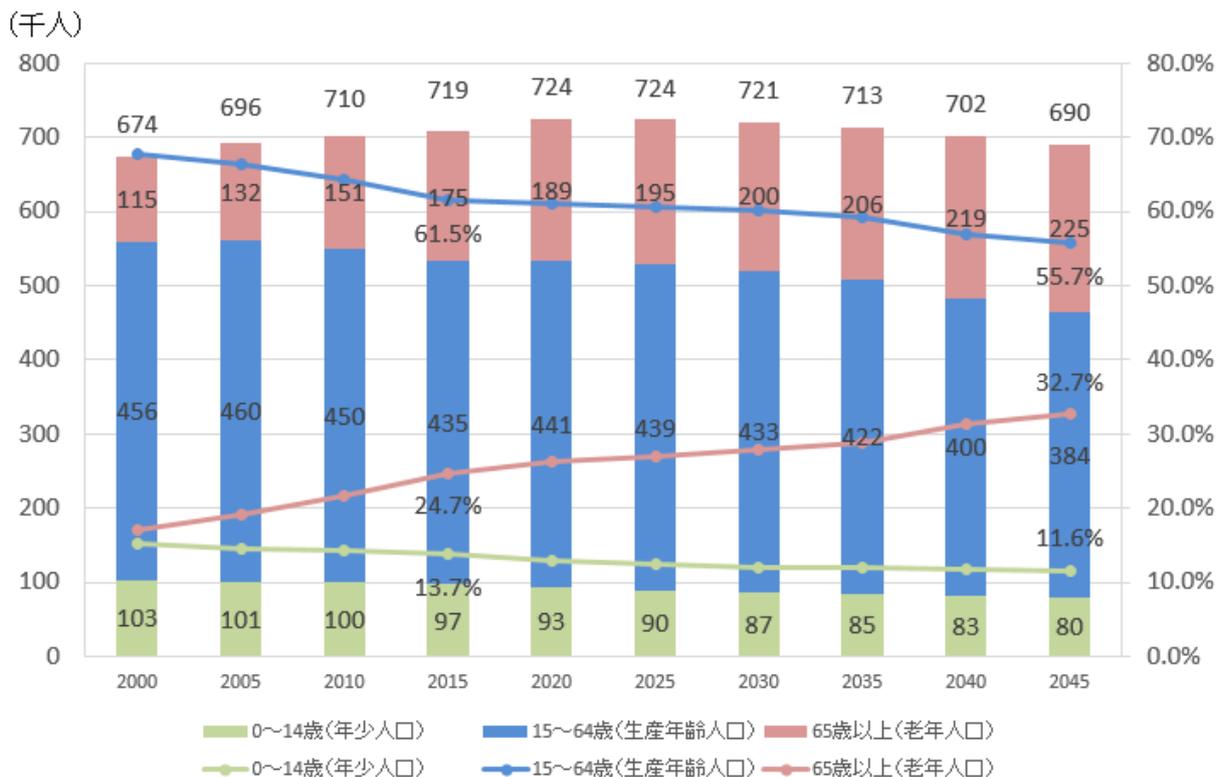
一方、2045年では、人口のピークとなる年齢層が高齢側にシフトする「逆ピラミッド型」に移行する。

図表5 岡山市の年齢別人口(人口ピラミッド)



年少人口は、2015(平成 27)年の 13.7%から、2045 年には 11.6%に、また、生産年齢人口は、2015(平成 27)年の 61.5%から、団塊ジュニアが 65 歳以上となる 2045 年には 55.7%に低下する。一方、老年人口は、2015(平成 27)年の 24.7%から、2045 年には 32.7%と大幅に上昇する。

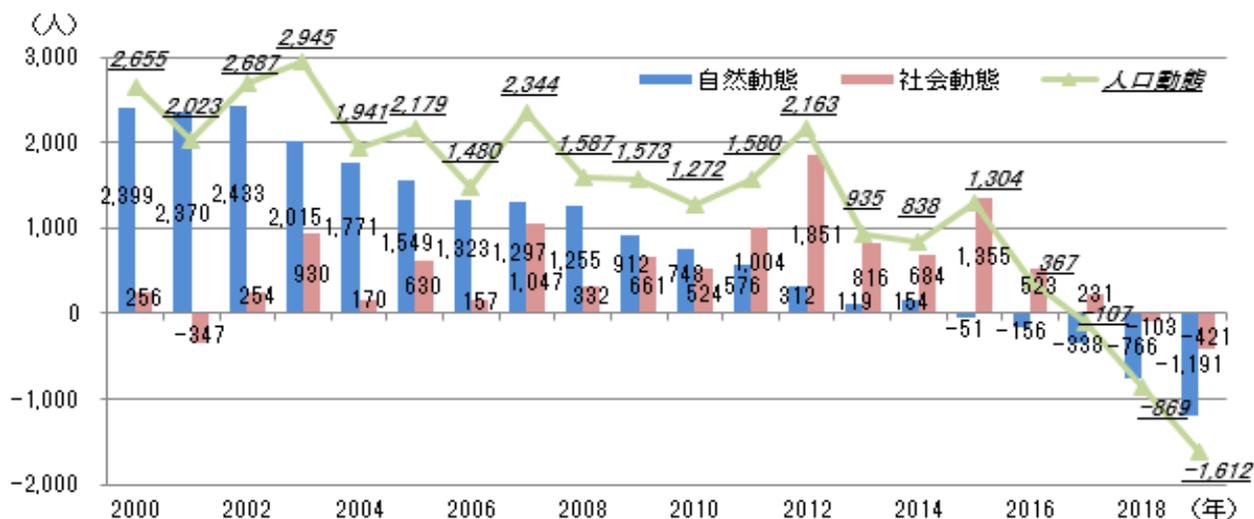
図表6 岡山市の将来人口と人口構成比の見通し



(3)人口動態

岡山市の人口動態について、自然動態(出生－死亡)は、2015(平成 27)年からマイナスに転じている。出生数は減少し、死亡数の増加があいまって、加速的に自然減が進展している。2018(平成 30)年以降、社会動態はマイナスに転じた。

図表 7 岡山市の人口動態



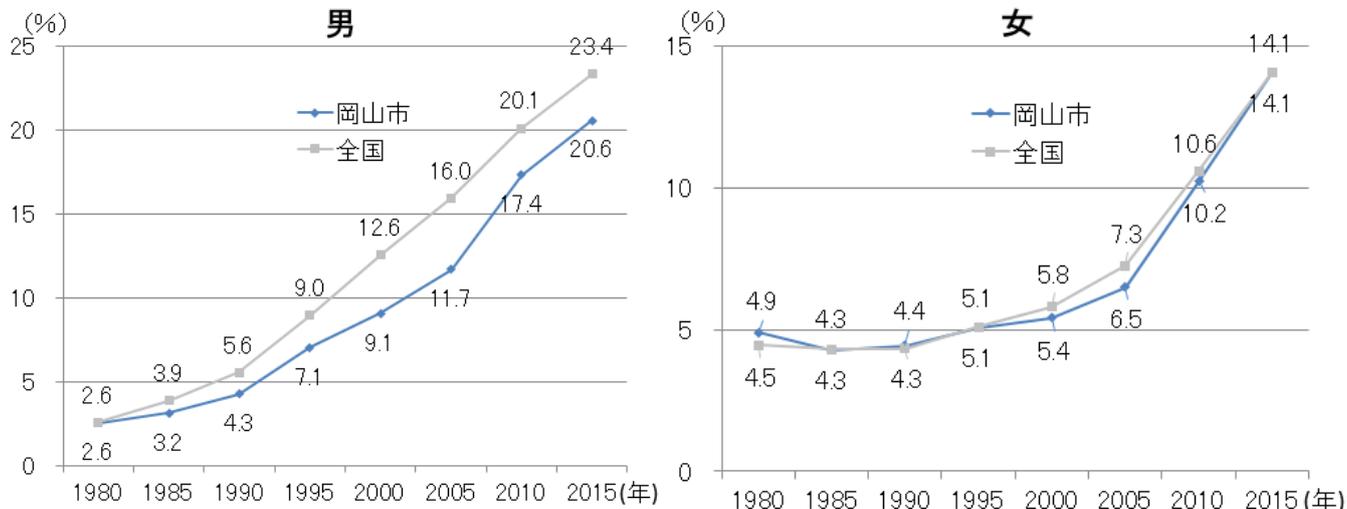
注：日本人のみ。データは前年 10 月～同年 9 月とする。2006 年以前は合併地域を含まない。
資料：岡山県「毎月流動人口調査」(職権登録や職権消除、日本への帰化や日本人の国籍喪失を含めている)

①自然動態

ア 非婚化・晩婚化の進行

50 歳時未婚率は、男性は全国より低いが、女性は全国と同水準であり、また全国同様、近年急激に上昇している。男性は 1980(昭和 55)年の 2.6% から 2015(平成 27)年には 20.6% に、女性は 4.9% から 14.1% に上昇しており、上昇傾向は特に男性において顕著である。

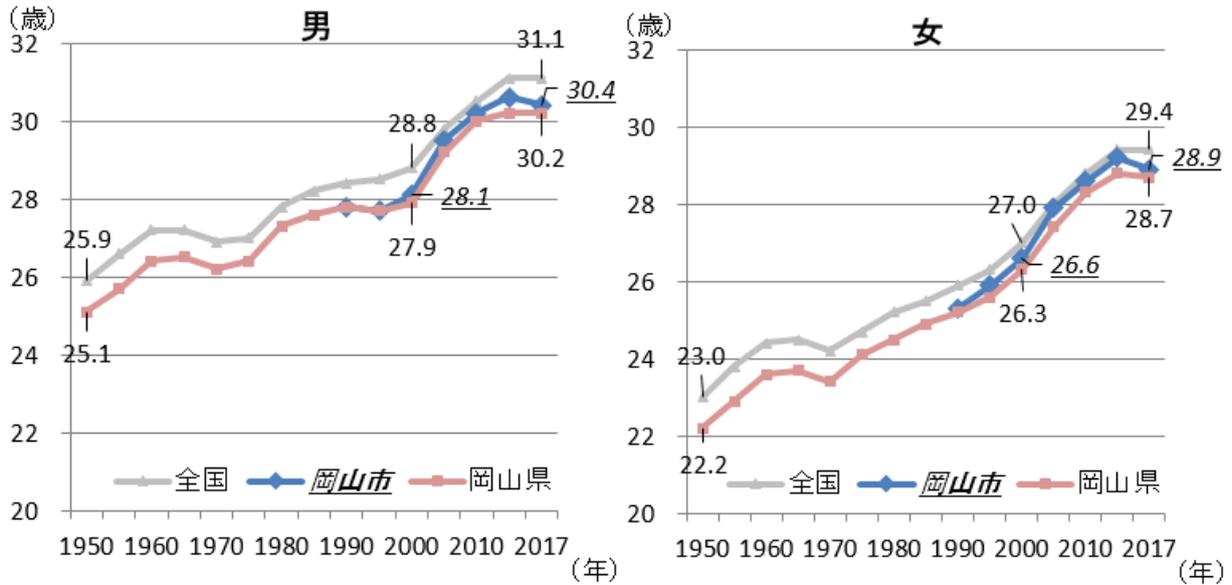
図表 8 岡山市の 50 歳時未婚率の推移



注：生涯未婚率：50 歳時の未婚率であり、45～49 歳と 50～54 歳の未婚率の単純平均。
資料：総務省「国勢調査」

また、平均初婚年齢は、男女とも全国平均よりは低いが、岡山県よりはやや高い。直近ではやや低下しているものの、全体としては、全国同様、年々上昇傾向にあり、晩婚化が進行している。これは、経済的な不安を抱える若者の増加や、出会いの場が少ないなどが影響しているものと考えられ、こうした晩婚化は、夫婦の平均出生数を減少させる。

図表9 岡山市の平均初婚年齢の推移

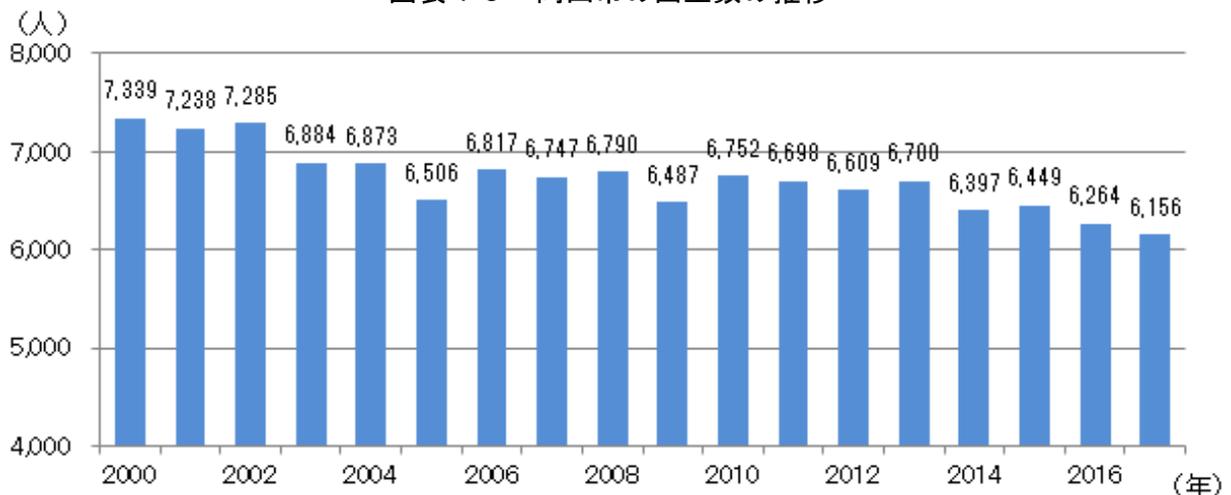


資料：厚生労働省「人口動態統計」、岡山県「衛生統計年報」

イ 出生数の推移

岡山市の出生数は、2000(平成12)年から2005(平成17)年にかけて減少した後、2009(平成21)年を除けば概ね6,600~6,800人前後で推移していたが、2014(平成26)年には6,400人に減少し、以降減少が続いている。

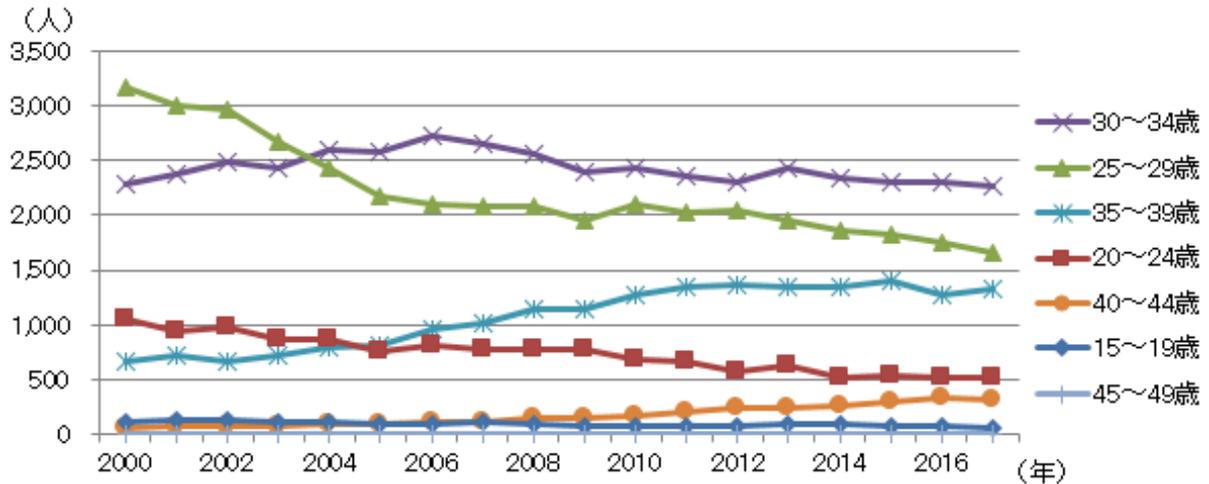
図表10 岡山市の出生数の推移



資料：岡山県「衛生統計年報」、総務省「人口動態統計」

岡山市の出生数を母の年齢別にみると、最多の30～34歳はやや減少傾向がみられる。25～29歳も減少する中で、35～39歳が着実に増加し、40～44歳は、緩やかに増加している。出産年齢の高齢化は晩婚化に因るところが大きいものと考えられる。

図表 1 1 母の年齢階級別にみた岡山市の出生数



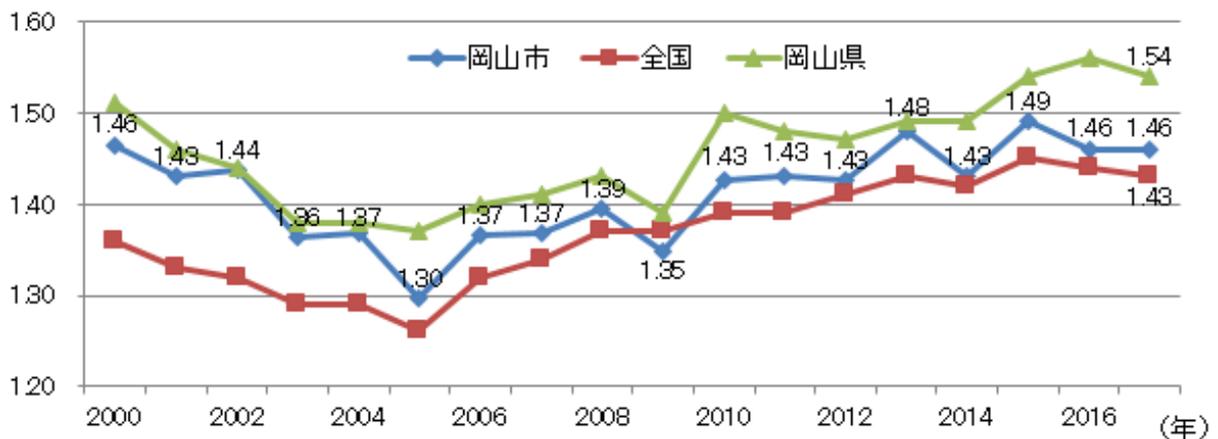
資料：岡山県「衛生統計年報」、総務省「人口動態統計」

ウ 合計特殊出生率の推移

母の年齢別出生率を合計した岡山市の合計特殊出生率は、岡山県を若干下回るものの、全国より概ね高い水準で推移している。

2003(平成 15)年～2009(平成 21)年の間は 1.3 台で低迷していたが、2010(平成 22)年以降は 1.4 台に上昇し、最近 5 年の平均値は 1.46 となっている。

図表 1 2 岡山市の合計特殊出生率の推移



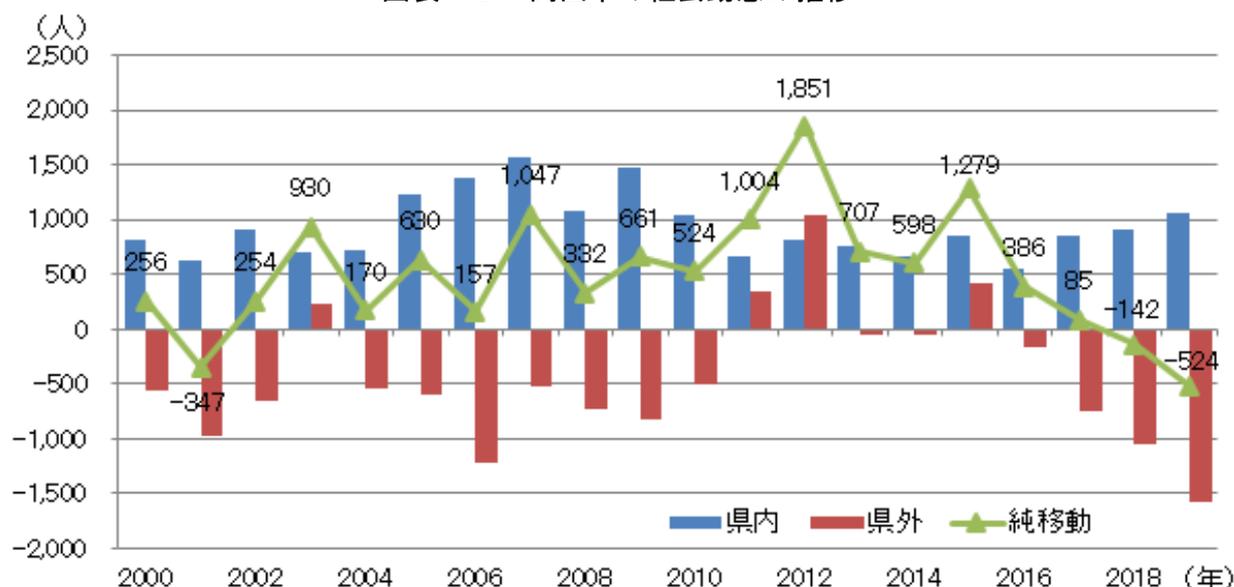
資料：岡山県「衛生統計年報」

②社会動態

ア 社会動態の推移

岡山市の社会動態をみると、県内に対しては、純移動(転入－転出)は常にプラス(転入超過)で推移しており、一方、県外に対しては、概ねマイナス(転出超過)で推移している。全体としては、2011(平成23)年、2012(平成24)年には東日本大震災の影響により大きく転入超過となったが、2018(平成30)年に転出超過に転じ、直近では524人の転出超過となっている。

図表13 岡山市の社会動態の推移



注：日本人のみ。データは前年10月～同年9月とする。

資料：岡山市「岡山市の統計」(ただし、2013年以降は岡山県「毎月流動人口調査」(職権登録や職権消除、日本への帰化や日本人の国籍喪失を含めていない))

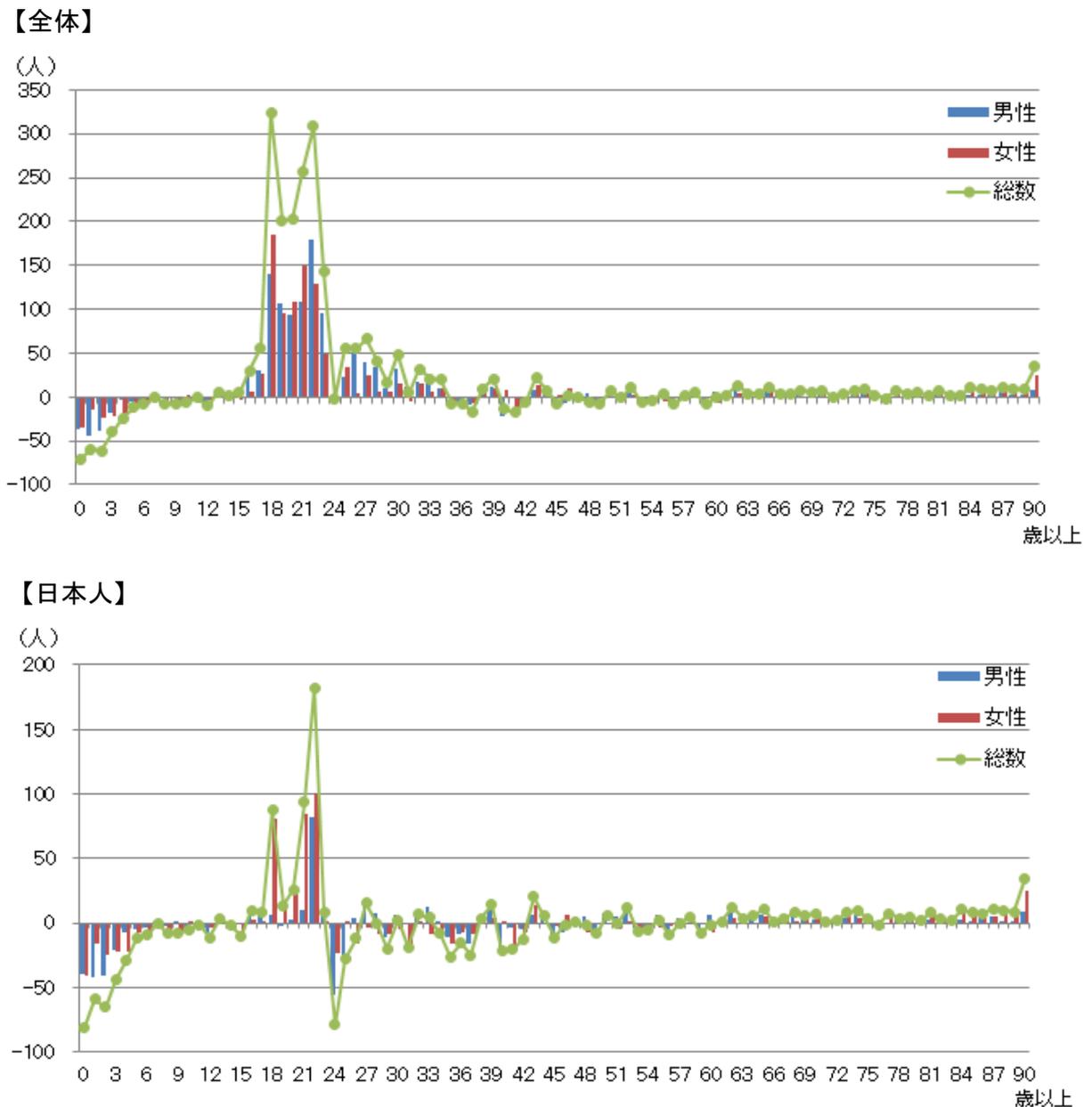
年	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
県内	812	624	902	693	722	1,223	1,375	1,577	1,073	1,480
県外	-556	-971	-648	237	-552	-593	-1,218	-530	-741	-819
純移動	256	-347	254	930	170	630	157	1,047	332	661

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
県内	1,032	665	819	752	654	852	545	842	910	1,052
県外	-508	339	1,032	-45	-56	427	-159	-757	-1,052	-1,576
純移動	524	1,004	1,851	707	598	1,279	386	85	-142	-524

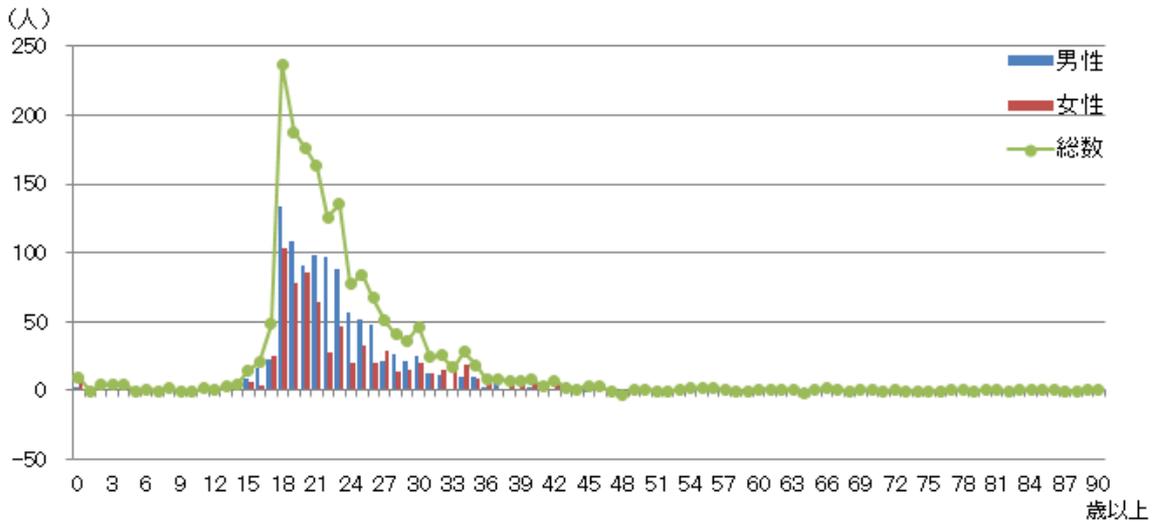
イ 年齢階級別の社会動態推移

岡山市の純移動の年齢階級別の状況を見ると、日本人では、大学等への進学から卒業、就職の時期に当たる18歳と22歳で純移動は大きくプラス(転入超過)となっているが、24歳で大きくマイナス(転出超過)となり、その後42歳頃まではマイナスの年齢が比較的多い。一方、外国人では、18歳で大きくプラス(転入超過)になっており、以降は徐々にプラス幅が縮小するものの、概ね30歳代半ば頃まではプラスが続いている。

図表14 日本人の純移動(転入-転出)の年齢別状況(2015~2018年の平均)



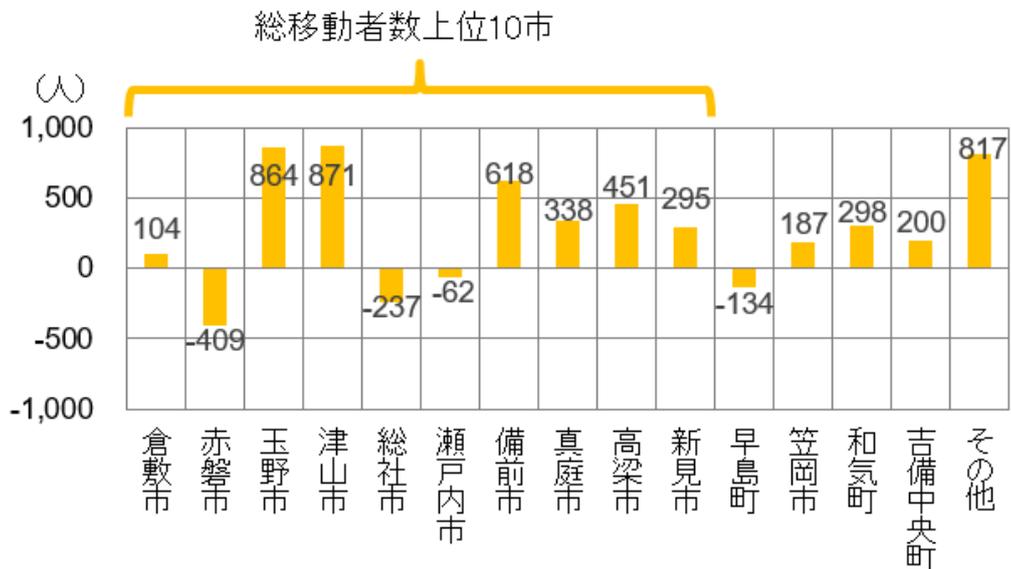
【外国人】



ウ 県内の市町村との純移動の状況

県内移動の状況を見ると、県内は、ほとんどの市町村からの純移動がプラス(転入超過)となっている。市町村別では、玉野市、備前市、津山市など広域から流入する一方、赤磐市、総社市、早島町等へ流出超過となっている。

図表 15 県内市町村との純移動の推移(2015～2019年の累計)



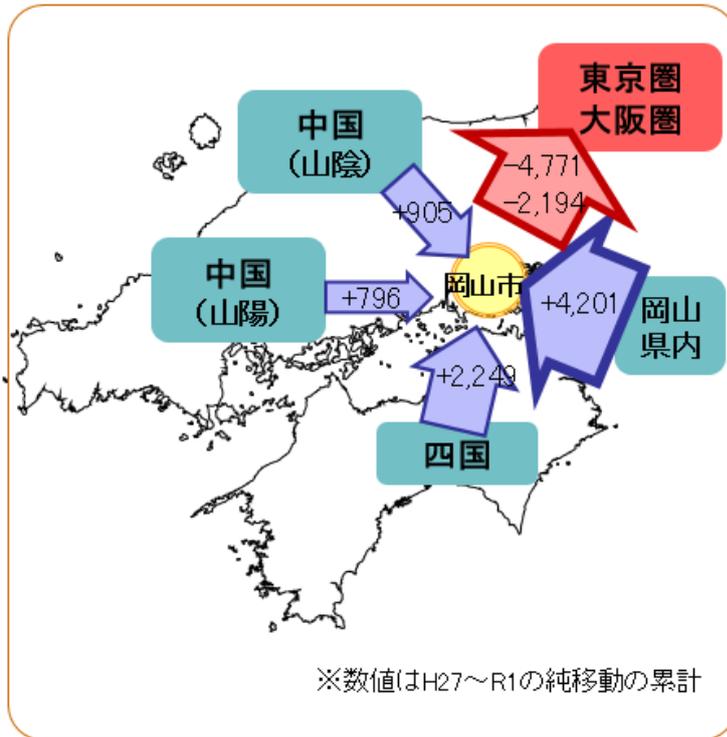
注：日本人のみ。データは前年10月～同年9月とする。

資料：岡山県「毎月流動人口調査」

エ 県外との純移動の推移

2015(平成 27)年から 2019(令和元)年において、県外転入・転出者の純移動の状況は、中国・四国地方からの純移動がプラス(転入超過)となっており、東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県合計)や大阪圏(大阪府、兵庫県、京都府、奈良県合計)に対して、純移動がマイナス(転出超過)となっている。

図表 1 6 岡山市の人口移動の構図

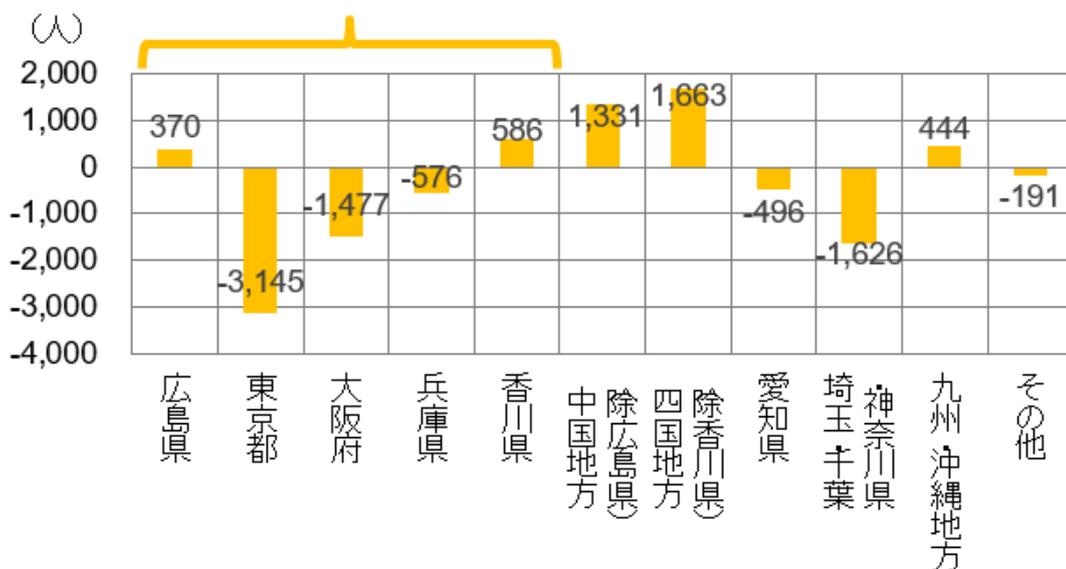


注：日本人のみ。

資料：岡山県「毎月流動人口調査」

図表 1 7 県外都道府県との純移動の状況(2015～2019年の累計)

総移動者数上位5都府県



注：日本人のみ。データは前年10月～同年9月とする。

資料：岡山県「毎月流動人口調査」

3-1-3 人口減少が与える影響

岡山市においても少子高齢化が進み、2019(令和元)年には人口減少局面を迎えており、今後の人口減少が地域に与える影響は少なくない。

生産年齢人口の減少に伴う、労働や地域活動の担い手不足による地域経済の縮小や地域コミュニティの機能低下等が懸念される。

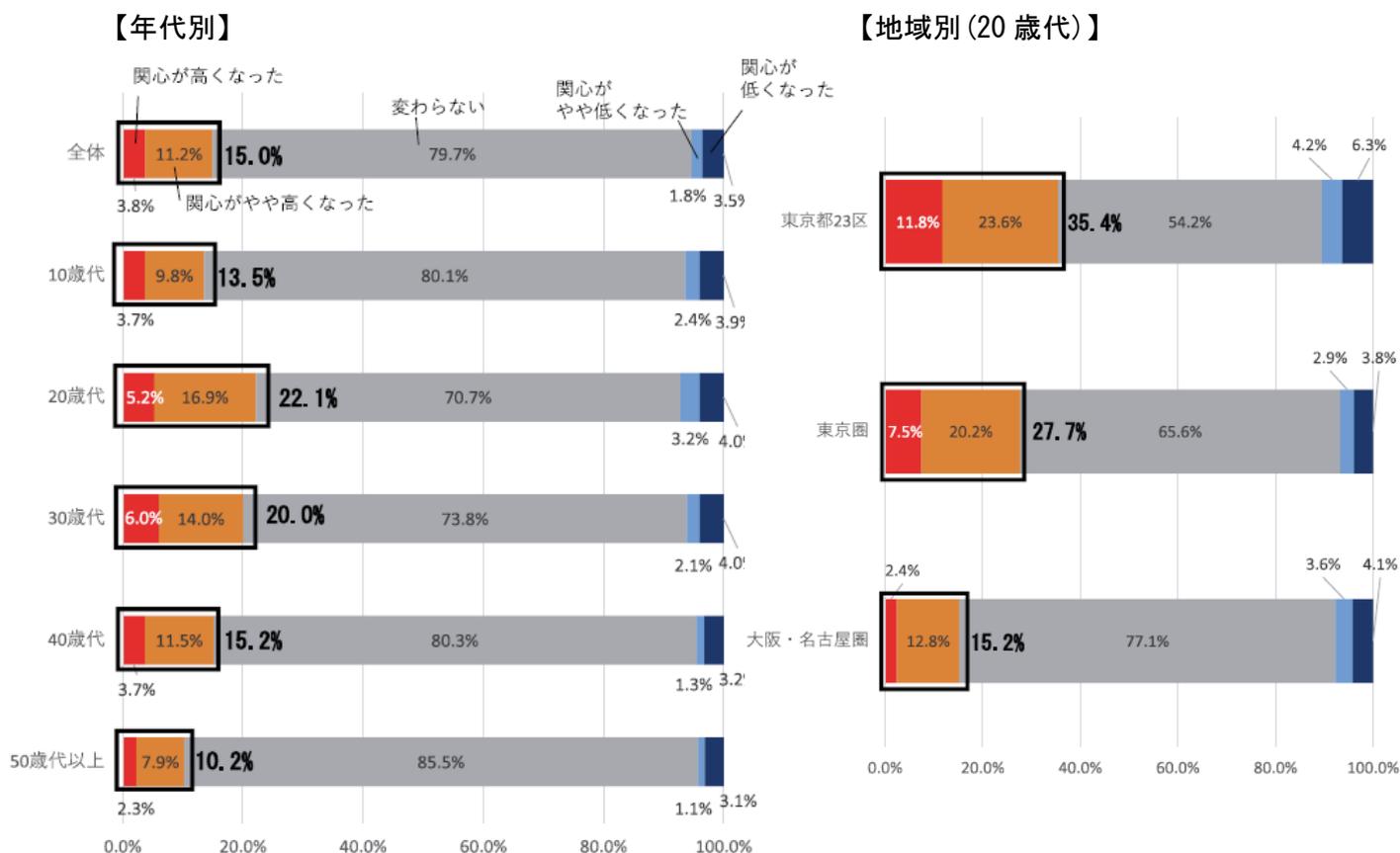
3-1-4 新型コロナウイルス感染症が与える影響

新型コロナウイルス感染症の拡大により、東京一極集中の脆弱性が顕在化する中、地方移住への関心の高まりがみられるなど、意識・行動に大きな変化が生じてきている。

新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻化してきた2020(令和2)年3月～6月のコロナ禍の社会動態について、過去2年間は転出超過であったが2020(令和2)年は424人の転入超過となった。

また、内閣府の2020(令和2)年調査によると、新型コロナウイルス感染症の影響下において、特に年代別では20歳代、地域別では東京都23区に住む者の地方移住への関心が高まっていることが分かった。

**【問】 今回の感染症の影響下において、地方移住への関心に変化はありましたか。
(三大都市圏居住者に質問)**



注：三大都市圏とは、東京圏、名古屋圏、大阪圏の1都2府7県。

東京圏：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

名古屋圏：愛知県、三重県、岐阜県

大阪圏：大阪府、京都府、兵庫県、奈良県

資料：内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(令和2年6月)

3-2 岡山市の人口の将来展望

3-2-1 目指すべき将来の方向の基礎となる市民の意識等

(1)結婚・出産・子育てに関する市民意識

市内に居住する、0歳から小学校6年生までの児童がいる家庭の中から無作為に対象を選び実施した「子ども・子育て支援に関するアンケート調査(平成31年1月)」の主な結果は、以下の通りである。

<主な結果>

- 岡山市の子育てのしやすさの程度について、「そう思う」(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が54.4%、就学前児童で48.2%、小学校児童で58.6%、「そう思わない」(「そう思わない」+「どちらかというところ思わない」)が41.0%、就学前児童で47.1%、小学校児童で36.8%となっている。

- 子育てしやすいまちにするために充実が必要だと思うこと(複数回答)については、「子どもが遊ぶ環境」、「仕事と子育ての両立支援」が59.8%と最も高く、「子育て世帯に対する経済的支援全般」が58.4%と続いている。

就学前児童では「認定こども園・保育園、幼稚園などの保育サービス(入園に関することも含む)」と回答した割合が71.0%と最も高く、次いで「仕事と子育ての両立支援」(64.1%)となっている。

小学校児童では「子育て世帯に対する経済的支援全般」と回答した割合が59.9%と最も高く、次いで「子どもが遊ぶ環境」(59.1%)となっている。

- 母親の育児休業取得状況について、「取得した(取得中である)」が38.6%、「取得していない」が12.9%である。取得しなかった理由としては、「子育てや家事に専念するために退職した」が最も高く36.4%で、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が18.9%となっている。職場への復帰状況については、75.1%が職場に復帰している。

父親の育児休業取得状況について、「取得した(取得中である)」が2.8%、「取得していない」が88.0%である。取得しなかった理由としては、「仕事が忙しかった」が36.5%と最も高い。

(調査概要)

- ・配 布 数：5,000通(回収率57.4%)
- ・回 収 数：2,869通
- ・調 査 方 法：郵送による配布・回収
- ・調 査 期 間：平成31年1月10日～1月31日(平成31年2月19日回収分まで)

(2) 移住・定住に関する意識

岡山市に移住を希望する方を対象に実施した「移住に関する意識・希望調査(令和2年8月)」の主な結果は、以下の通りである。

<主な結果>

○ 岡山市への移住希望の理由やきっかけ(複数回答)として、「程よい都会暮らし」が40.8%、「のどかな田舎暮らし」が36.7%、「美味しい食べ物や水」が30.6%となっている。

○ 移住・定住先に岡山市を選んだ理由(複数回答)としては、「気候が温暖」が55.1%と最も多く、「自然災害が少ない」が52.4%、「都市の規模が程よい」が47.6%となっている。

○ 移住・定住において、特に支援が必要と思うもの(複数回答)として、「住まい探し」が69.4%、「仕事探し」が55.8%となっている。

仕事探しであったらいいと思う支援(複数回答)としては、「求人情報の提供」が54.4%、「職業斡旋(正社員)」が38.1%、「職業斡旋(パート・アルバイト)」が23.8%、「就職面接会の開催」が19.7%、「起業の支援・補助等」が17.0%となっている。

(調査概要)

- ・配 布 数：郵送540通(回収率10.7%)
- ・回 収 数：郵送58通(別途、WEB回答89件)
- ・調 査 方 法：郵送による配布・回収とWEBでの回答受付
- ・調 査 期 間：令和2年8月1日～8月31日

3-2-2 目指すべき将来の方向

方向性1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

若い世代が希望を持ち、安心して家庭を築き、さらに安心して出産、子育てができるよう出会いから結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援を充実するなど、子育てを支える環境づくりを進め、出生率の向上を目指す。

方向性2 安定した雇用と活力を創出し、岡山市へ新しいひとの流れをつくる

地場産業の育成・強化及び地域資源を活かした戦略的な産業の創出・育成を図るとともに、中四国のゲートウェイとしての優れた広域拠点性や、災害リスクの低さ等を活かし、継続的に企業立地を進め、雇用を創出するとともに、働き方・業態・生活様式の変化に対応した産業の支援を図る。

また、岡山市の魅力向上を図り、若者の就職等による東京圏、大阪圏への転出に歯止めをかけるとともに、移住・定住に係る取組をさらに推進し、特に大都市圏からのU I Jターンの取組を推進する。

方向性3 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

岡山市の魅力である災害が少なく温暖で恵まれた自然環境と質の高い都市機能のどちらも享受できる、「住みやすさ」に磨きをかけ、周辺地域と都心が調和し、持続的に発展できる都市づくりを進め、都市に活力と躍動感を創出していく。

周辺地域に活力ある拠点が形成され、都心、地域の拠点、地域生活圏内の各エリアがネットワークで結ばれ、さらには周辺市町や国内外の諸都市とも交流・連携を深める「コンパクトでネットワーク化された都市づくり」を進める。

3-2-3 岡山市人口の将来展望

(1) 将来人口推計

① 推計パターン

<基本推計>

- 岡山市が独自に実施した将来人口推計(合計特殊出生率：2014年～2018年の平均値：1.46)による、2060年までの長期推計。

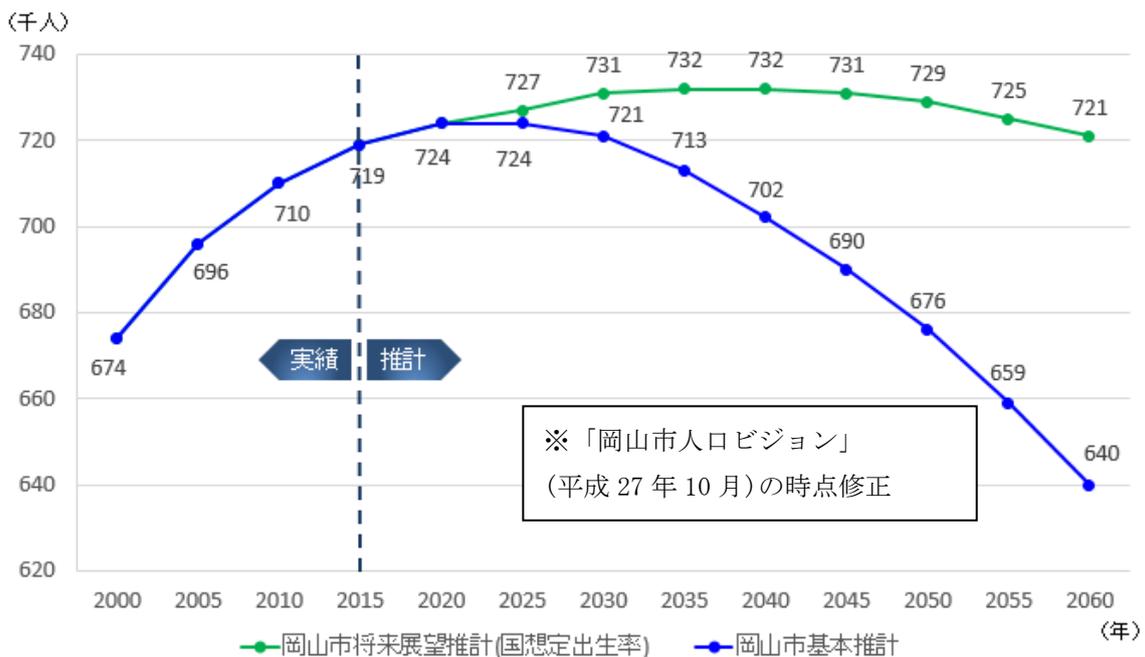
<将来展望推計>

- 岡山市の上記将来人口推計を基に、合計特殊出生率について、国の長期ビジョンが想定する出生率(2030年に1.8程度まで向上し、2040年に人口が安定的に維持できる水準(人口置換水準)である2.07程度が達成されるケース)に置き換えた場合の2060年までの長期推計。

② 推計結果

上記基本推計によると、2060年には64万人程度と見込まれる。上記将来展望推計によると、国想定出生率が達成された場合、2040年の73万2千人程度をピークに人口減少期に入り、2060年には72万1千人程度と見込まれる。

図表18 岡山市の将来人口推計



③ 人口の将来展望

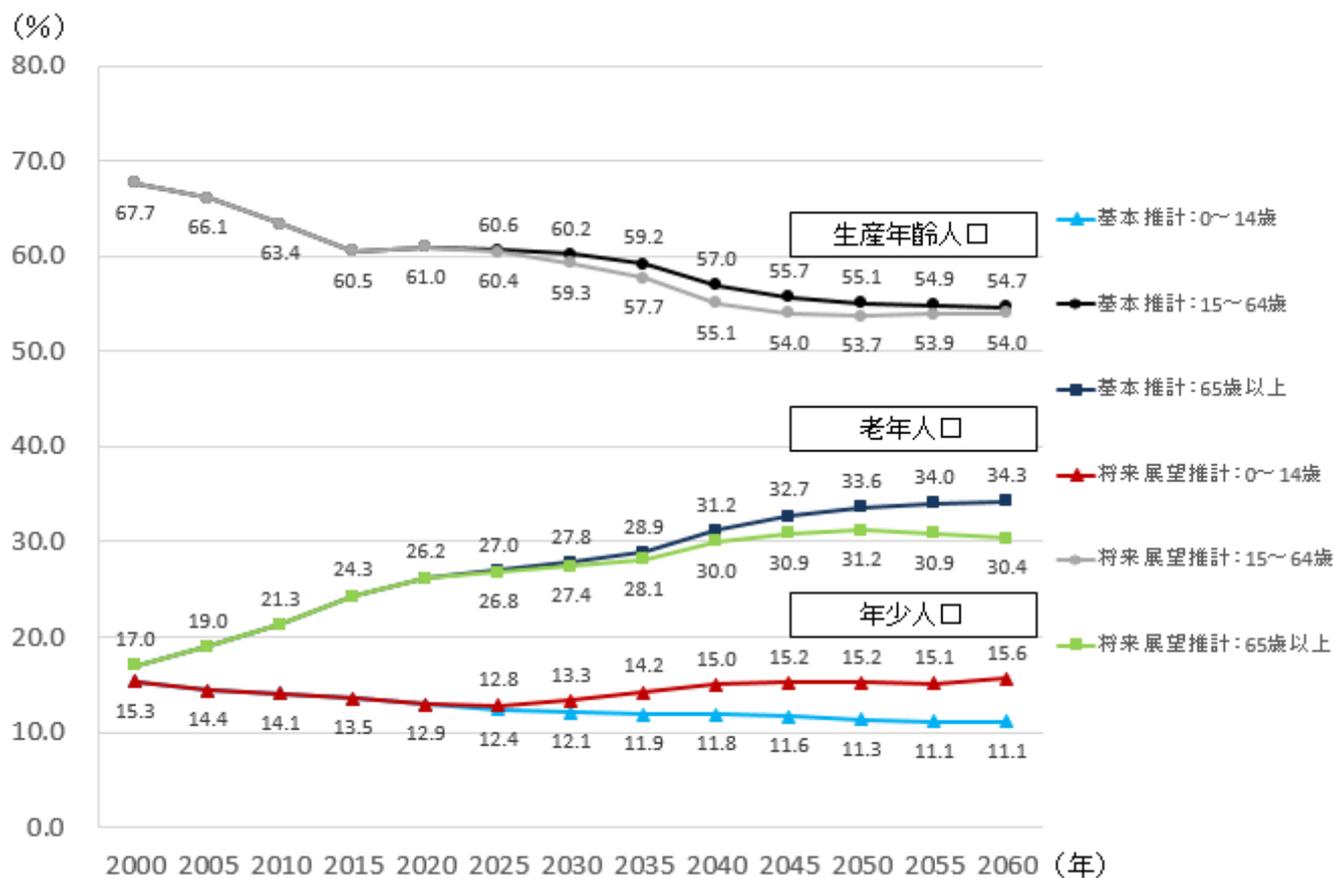
国想定出生率による人口推計(上記将来展望推計)を展望しつつ、第2期総合戦略を着実に実行することにより、人口減少傾向を和らげ、基本推計人口水準の引き上げを図る。

(2) 将来の年齢3区分別人口推計

① 年齢3区分別人口比率

国想定出生率が達成された場合(将来展望推計)、年少人口比率は、2025年の12.8%を底に下げ止まることが見込まれる。また、生産年齢人口比率は、2050年の53.7%を底に下げ止まり、老年人口比率は、2040年には市の総人口の3割を超えることが見込まれる。

図表19 年齢3区分別人口比率



②年齢3区分別人口

国想定出生率が達成された場合(将来展望推計)、年少人口は2025年の9万3千人を底に増加に転じることが見込まれる。また、生産年齢人口は減少を続けるが、2050年の39万1千人からほぼ一定となり、老年人口は2050年の22万7千人をピークに減少に転じることが見込まれる。

図表20 年齢3区分別人口

